

第7回

和牛甲子園

結果報告書



和牛甲子園

令和6年1月18日・19日

全農

主催：全国農業協同組合連合会

後援：文部科学省
農林水産省
独立行政法人農畜産業振興機構
独立行政法人家畜改良センター
東京都中央卸売市場食肉市場
東京食肉市場株式会社
全国農業高等学校長協会
日本学校農業クラブ連盟
公益財団法人全国学校農場協会
公益社団法人全国食肉学校
一般社団法人全国農業協同組合中央会
JA全農ミートフーズ株式会社

協賛：三洋貿易株式会社
株式会社ワイビーテック
富士フィルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
農林中央金庫
共栄火災海上保険株式会社
公益社団法人中央畜産会
公益社団法人全国食肉学校
協同乳業株式会社
全農畜産サービス株式会社
株式会社科学飼料研究所
株式会社全農ビジネスサポート
全農サイロ株式会社
ホクレンくみあい飼料株式会社
JA全農北日本くみあい飼料株式会社
JA東日本くみあい飼料株式会社
JA西日本くみあい飼料株式会社
ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社
南日本くみあい飼料株式会社
全農チキンフーズ株式会社
JA全農たまご株式会社
JA全農ミートフーズ株式会社

第7回約千甲子園ホームページ
大会の様子はこちらでもご覧いただけます。
<https://wagyu-koushien.com>



大会当日の様様

1日目： <https://youtube.com/live/E-Aqi00k7Dk>
2日目： <https://youtube.com/live/qf1t2Qmq0lo>



1日目



2日目



目次

開会あいさつ	1
大会概要/タイムスケジュール	2
開催意義・目的/出場校一覧	3
和牛創育体験発表会 タイトル	4
出品牛一覧	5～6
選手宣誓/審査委員一覧	7
祝辞紹介(開会式)	8～9
褒賞式あいさつ	10
祝辞紹介(褒賞式)	11～13
大会結果	14
総合評価部門 最優秀賞	
取組評価部門 審査委員特別賞 鹿児島県立 鹿屋農業高等学校	15～16
枝肉評価部門 最優秀賞	
取組評価部門 最優秀賞・高校牛児特別賞 岐阜県立 加茂農林高等学校	17～18
優秀賞 神奈川県立 中央農業高等学校	19
優秀賞 鹿児島県立 市来農芸高等学校	20
優良賞 岐阜県立 大垣養老高等学校	21
優良賞 愛知県立 渥美農業高等学校	22
優良賞 宮崎県立 高鍋農業高等学校	23
審査委員特別賞 京都府立 農芸高等学校	24
審査講評	26～27
体験発表会カンファレンス	28～29
枝肉評価部門 最優秀賞 鹿児島県立 鹿屋農業高等学校	30
優秀賞 福島県立 会津農林高等学校	31
優秀賞 岐阜県立 飛騨高山高等学校	32
優良賞 京都府立 農芸高等学校	33
優良賞 宮崎県立 高鍋農業高等学校	34
優良賞 鹿児島県立 市来農芸高等学校	35
審査委員特別賞 栃木県立 栃木農業高等学校	36
審査講評	37～41
枝肉断面一覧	42～49
枝肉評価部門 成績一覧	50
褒賞及び受賞結果	51
先輩「高校牛児」講話	52～53
第7回和牛甲子園 特別授業(講演会)	54
和牛甲子園に参加して	55～76
大会風景	78
第7回和牛甲子園 開催要領	81～88
審査基準・褒賞について	89～91
協力者一覧	92



開会あいさつ



ただいまご紹介いただきました、会員の齊藤でございます。主催者を代表しまして、ひとことあいさつ申し上げます。

まずはこの度、能登半島地震により亡くなられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。そして、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

さて、本年第7回和牛甲子園の開催にあたりまして、農林水産省様、文部科学省様、独立行政法人農畜産業振興機構様、公益社団法人中央畜産会様をはじめ、関係機関・団体のご来賓のみならず、ならびに畜産・食肉業界からも多数のご参加をいただきました。本朝にありがとうございます。

また、東京都中央卸売市場 食肉市場様、全国商業高等学校校長協会様をはじめとする学校関係のみならず、東京食肉市場 株式会社様をはじめ、ご後援を頂いたみなさま、ならびに審査委員の先生方には、企画や準備の段階から格別のご指導を賜りましたことに重ねて御礼を申し上げます。

ここ数年低産を悩んでいた畜産型コロナウイルス感染症が、昨年5期感染症に移行されたことで、生活は日常に戻り、社会経済活動は回復しつつあります。コロナ禍において、和牛甲子園もオンライン開催や支園催を含むハイブリッド開催を余儀なくされましたが、今回の第7回大会は、4年ぶりにすべての高校が会場に実参加して頂くことができました。久々に実会場ならではの臨場感や熱気を感じて頂けるのではと思っています。また、本日のプログラムで、生徒同士の交流促進を目的とした体験発表会カンファレンスを予定していますので、ぜひ全国の仲間たちと積極的に意見交換をして頂きたいと考えます。加えて、先輩高校生による講話では、第3回、4回大会で総合優勝を果たした鹿児島県立市来農業高等学校の卒業生に登場して頂きます。さらに、特別授業では、海外で和牛の魅力伝える活動をされている若者フューチャーの講演も予定していますので、ぜひ楽しみになさってください。

本大会には、新たに福岡県と大分県の2県、2校の参加があり、参加高校は合計25道府県、41校と、過去最大の規模となり、主催者として大変嬉しく思っているところです。

さて、この大会の主人公である高校生のみならず、和牛甲子園のねらいと私たちの思いについてお話しさせていただきます。

一つ目のねらいは、高校で和牛を飼育されているみなさんに、ぜひ将来の担い手になってほしいということです。わが国で肉牛を飼育する農家は年々減少しています。高校に入学して、たまたま和牛と出会ったという方も少なくないと思いますが、そうしたみなさんにも、和牛甲子園を通して、「和牛飼育は楽しい。一生の仕事にしてみよう」と、是非思ってもらいたいということです。

二つ目のねらいは、日頃みなさんが取り組まれている活動内容の共有化を通じて、牛飼いの楽しさや奥深さ分からあえる仲間を作ってもらいたいということです。同じ世代の仲間たちの創意工夫あふれる取り組みを学ぶことは、必ずみなさんの今後の成長につながると確信しております。

この大会がそのようなきっかけになってほしいと心から願っています。

そして、こうした次の世代を担う若いみなさんに、私たちAグループをはじめ、畜産関係者全員が心から応援していることをお伝えしたい。これが私たちの思いです。

現在、畜産を取り巻く状況は、配合飼料や生産資材価格の高止まり等による生産コスト高が続き、大変厳しい状況にあります。こうしたなか、本会は和牛の消費拡大を目的に「ちょっといい日に和牛をたべよう！」を合言葉とする消費喚起番組に取組んでいるところです。

むすびに、この2日間が、皆さまにとって有意義で充実したものとなりますことを祈念して、「第7回 和牛甲子園」開催の挨拶といたします。

本日は、よろしくお願いたします。

令和6年1月18日

全国農業協同組合連合会 事務理事

齊藤 良樹



大会概要／タイムスケジュール

和牛甲子園とは

全国には農業高校が300校余りあり、中でも畜産学科が設置されている学校を中心に、授業やクラブ活動の一環として高校生の手によって和牛が飼育されています。そんな、全国の高校生と、彼らが育てた和牛が集まり、日ごろの和牛飼育の取り組みを発表し、その成果としての枝肉の肉質を競い合う大会、それが「和牛甲子園」です。

名称：第7回和牛甲子園

日程：令和6年1月18日（木）・19日（金）

1日：和牛飼育体験発表会 他／2日：和牛枝肉 勉強会・共助会 他

会場：品川グランドホール（THE GRAND HALL）／東京都中央卸売市場食肉市場

主催：全国農業協同組合連合会

後援：文部科学省、農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構、独立行政法人家畜改良センター、東京都中央卸売市場食肉市場、東京食肉市場株式会社、全国農業高等学校長協会、日本学校農業クラブ連盟、公益財団法人全国学校農場協会、公益社団法人全国食肉学校、一般社団法人全国農業協同組合中央会、JA全農ミートフーズ株式会社

協賛：三洋貿易株式会社、株式会社ワイビーテック、富士フィルムビジネスインノベーションジャパン株式会社、農林中央金庫、共栄火災海上保険株式会社、公益社団法人中央畜産会、公益社団法人全国食肉学校、協同乳業株式会社、全農畜産サービス株式会社、株式会社科学飼料研究所、株式会社全農ビジネスサポート、全農サイロ株式会社、ホクレンくみあい飼料株式会社、JA全農北日本くみあい飼料株式会社、JA和国くみあい飼料株式会社、JA西日本くみあい飼料株式会社、ジェイエィ北九州くみあい飼料株式会社、南日本くみあい飼料株式会社、全農チキンフーズ株式会社、JA全農たまご株式会社、JA全農ミートフーズ株式会社

タイムスケジュール

1日目 1月18日（木）

時間	次第	場所
13:00～13:40	開会式	品川グランドホール (THE GRAND HALL)
13:45～14:55	和牛飼育体験発表会 (結果発表・入賞校発表・講評)	
15:05～15:45	先輩「高校牛児」講話	
16:10～17:10	体験発表会カンファレンス	
17:30～18:00	学校交流会	
	1日目終了	

2日目 1月19日（金）

時間	次第	場所
8:00～9:30	和牛枝肉勉強会	東京都中央卸売市場食肉市場
9:30～10:30	和牛枝肉共助会	
10:30～11:15	移動	品川グランドホール (THE GRAND HALL)
11:30～12:00	特別授賞（講演会）	
12:00～13:00	昼食・休憩	
13:00～13:30	枝肉勉強会まとめ入賞牛解説	
13:45～14:45	授賞式	
14:45～15:30	入賞校写真撮影・取材	
	解散	

※大会の進行によっては、時間が前後する可能性があります。



開催意義・目的／出場校一覧

① 参加生徒の目標・目的意識の場の設定

農業高校において和牛飼育実習を行っている生徒に対し、目標となる場を設定し、「和牛甲子園大会出場」という目標・目的意識をもたせることにより、学習効果の向上と合わせ、畜産業界への関心を高めてもらう。

② 将来の担い手候補である高校生間のネットワーク作り

“高校牛児”として同じ志を持つライバルを日本各地に見出し、お互いに切磋琢磨し合うような同世代との交流の場を創出する。

第7回和牛甲子園出場校一覧

順位	出場校名	出場回数	出品頭数	(参考) 第6回和牛甲子園の結果
1	1 北海道知安農業高等学校	2	1	取組評価部門 優秀賞
2	2 群馬学園大学附属との森三愛高等学校	2	1	
3	3,4 青森県立三本木農業専門学校	4	2	
4	5,6 岩手県立水沢農業高等学校	7	2	
5	7,8 岩手県立盛岡農業高等学校	4	2	
6	9,10 岩手県立花巻農業高等学校	3	2	
7	11 宮城県豊栄高等学校	3	1	
8	12,13 福島県立会津農林高等学校	5	2	
9	14,15 福島県立磐城農業高等学校	4	2	枝肉評価部門 優良賞
10	16,17 茨城県立水戸農業高等学校	2	2	
11	18,19 栃木県立宇都宮白根高等学校	7	2	
12	20,21 栃木県立高沼南高等学校	7	2	
13	22,23 栃木県立栃木農業高等学校	7	2	取組評価部門 優良賞
14	24,25 栃木県立那須拓殖高等学校	7	2	
15	26,27 栃木県立真岡北陵高等学校	6	2	
16	28,29 栃木県立矢板高等学校	7	2	枝肉評価部門 優良賞
17	30,31 群馬県立利根実業高等学校	5	2	
18	32,33 群馬県立吾妻中央高等学校	2	2	
19	34 神奈川県立中央農業高等学校	5	1	取組評価部門 優良賞
20	35 富山県立中央農業高等学校	7	1	
21	36 岐阜県立大垣聖徳高等学校	6	1	総合評価部門 優良賞 枝肉評価部門 優良賞
22	37,38 岐阜県立加茂農林高等学校	7	2	
23	39 岐阜県立飛騨高山高等学校	7	1	枝肉評価部門 優良賞
24	40,41 愛知県立渥美農業高等学校	5	2	取組評価部門 高校牛児特別賞 枝肉評価部門 審査委員特別賞
25	42,43 滋賀県立長浜農業高等学校	6	2	
26	44 京都府立農業高等学校	2	1	取組評価部門 優良賞
27	45 鳥取県立出雲農林高等学校	7	1	枝肉評価部門 優良賞
28	— 岡山県立瀬戸南高等学校	5	0	
29	46 広島県立西条農業高等学校	5	1	取組評価部門 優秀賞
30	— 広島県立庄原実業高等学校	2	0	
31	— 山口県立大津緑洋高等学校	4	0	
32	— 福岡県立糸島農業高等学校	初	0	
33	— 大分県立久住高松農業高等学校	初	0	
34	47 佐賀県立藤津南高等学校	7	1	
35	— 長崎県立諫早農業高等学校	4	0	
36	48,49 熊本県立南郷高等学校	5	2	
37	50,51 宮崎県立高橋農業高等学校	3	2	
38	52,53 鹿児島県立市来農業高等学校	6	2	取組評価部門 優良賞
39	54,55 鹿児島県立錦陽高等学校	7	2	
40	56,57 鹿児島県立鹿屋農業高等学校	7	2	取組評価部門 審査委員特別賞
41	58,59 鹿児島県立曾根高等学校	6	2	
合計			59	

※第3回大会より、次年度の和牛甲子園に出場予定の高校については、和牛飼育体験発表会のみでの出場も可能としている。



和牛飼育体験発表会 タイトル

和牛飼育体験発表会

学校 No.	学校名	題 名
1	北海道厚知安曇野高等学校	ようい!和牛プロジェクト ～地域と歩む、持続可能な和牛生産を目指して～
2	群馬県立大学附属とわの森三堂高等学校	とわの森三堂初出品!!～米利用資源を利用した和牛肥育を目指して～
3	青森県立三木木葉養老高等学校	高オレイン酸ヒマワリ VS エコフィード →美味しい牛肉はどっちだ?～
4	岩手県立水沢農業高等学校	目指せ!枝肉評価部門最優秀賞!!～酒粕けしして、うめとへぼになりました!～
5	岩手県立盛岡農業高等学校	牛床にこだわる牛づくり
6	岩手県立花巻農業高等学校	小豆と大豆と私たち ～アニマルウェルフェアを意識した畜産的な肥育管理を目指して～
7	宮城県農業高等学校	酪農JK～仙台牛への挑戦～
8	福島県立会津農業高等学校	最上級の黒べこを目指して ～地産地消に向けた取り組み～
9	福島県立磐城農業高等学校	先輩から受け継いだ絆! 今!～開花するとき～
10	茨城県立水戸農業高等学校	Challenge～安心・安全な和牛生産を目指して～ 2/23
11	栃木県立宇都宮白根高等学校	粗飼料自給100%を目指して
12	栃木県立藤沼南高等学校	新たな資源を利用した肥育に挑戦 ～和牛が繋げた畜産の輪～
13	栃木県立栃木農業高等学校	飼養動物科学科の今年度の取り組み
14	栃木県立那須拓殖高等学校	私たちの「匠」物語
15	栃木県立真岡北郷高等学校	私たちの1年間の取り組み ～エコフィード結果 甘藷搾搾香 甘お灸～
16	栃木県立矢板高等学校	持続可能な肉牛生産を目指して ～森林資源の活用とアニマルウェルフェア～
17	群馬県立利根実業高等学校	和牛とともに歩んだ1年間
18	群馬県立吾妻中央高等学校	吾妻中央高校における和牛肥育の取り組みと地域貢献の活動
19	神奈川県立中央農業高等学校	中農和牛で盛り地域の福 ～地域と共存した和牛飼育実現に向けて～
20	富山県立中央農業高等学校	JGAP認証のその先
21	岐阜県立大垣養老高等学校	健康な和牛にミニバラを添えて ～あなたの言葉をおります～
22	岐阜県立加茂農林高等学校	! LOVE 飛騨牛 ～未来を切り拓く私たちの挑戦～
23	岐阜県立飛騨山岡高等学校	種わらの長さによる飛騨牛の増体率について
24	愛知県立渥美農業高等学校	安心・安全・幸せな牛舎 アニマルウェルフェア認証・普及に挑戦
25	滋賀県立長浜農業高等学校	SDGsを活かす近江牛生産への取り組み
26	京都府立豊前高等学校	届けます!!夢と希望をつめ込んで京の肉で明日に向かう!
27	鳥取県立出雲農林高等学校	しまねの良さを申とて ～日本一の肉質を全国へ～
28	岡山県立瀬戸南高等学校	エコフィードを使った地域と環境に優しい牛づくり～びっけ!頑張った「たかひめ」～
29	広島県立西条農業高等学校	プロジェクト雉 ～愛情込めて育てた広島和牛!快進を安眠でBIGになーれ!!～
30	広島県立庄原実業高等学校	比婆牛の新たな価値を創る
31	山口県立大津洋学高等学校	長門の牛を全国へ～地域資源の活用～
32	福岡県立糸島農業高等学校	小さな畜産経営の魅力を再発見!
33	大分県立久住湖園農業高等学校	みんなの期待を形に ～継続した地域との繋がりを目指して～
34	佐賀県立唐津南高等学校	初めての一貫経営で学んだこと
35	長崎県立諫早農業高等学校	これまでも、そしてこれからも!!クリーンミートの生産を目指して!
36	熊本県立南郷高等学校	「ミニフーズ」を用いたリシパ対策に関する研究
37	宮崎県立高鍋農業高等学校	えのきでつくる 未来へ繋げる牛づくり ～高良和牛の挑戦～
38	鹿児島県立市来農業高等学校	ミライはぼくらが創る! ～今の畜産情勢を乗り越えるために～
39	鹿児島県立碧川高等学校	牛にも人にも良い環境で パートⅡ ～ストレス軽減に向けた私たちの取り組み～
40	鹿児島県立鹿屋農業高等学校	地域資源の活用で和牛の魅力をもっと未来へつなぐ ～竹の利用で継続できる経営へ～
41	鹿児島県立曾根高等学校	目指せストレスフリー! 獲るぞ日本一! 我らが育てた鹿児島県黒牛 Vol.5



出品牛一覽

出品番号	母牛番号	種別	品名	産駒名	母牛の 出身地(産乳舎)	父種	母牛名	血統			生産 時期	生産 年度	別ID(登録番号)
								父	母	産乳舎			
1	53	出納	出納型	JAL5471	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	新井隆	藤中隆	尾中隆	29	R3.2	14326-15044
2	52	種	出納	出納型	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	30	R3.7.11	14179-21474
3	55	出納	出納	JAL5485	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	30	R3.4.10	11909-20341
4	54	出納	出納	JAL5486	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	28	R3.4.7	15765-20452
5	56	出納	出納	JAL5487	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	32	R3.5.11	14331-43312
6	56	出納	出納	JAL5488	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	31	R3.5.20	14321-43324
7	57	出納	出納	JAL5489	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	28	R3.8.17	15747-12553
8	58	出納	出納	JAL5490	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	27	R3.9.26	15747-12546
9	59	出納	出納	JAL5491	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	29	R3.7.22	14647-47248
10	60	出納	出納	JAL5492	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	29	R3.7.22	14647-47248
11	61	出納	出納	JAL5493	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	30	R3.7.17	14344-14351
12	62	種	出納	JAL5494	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	31	R3.8.15	15742-14443
13	63	出納	出納	JAL5495	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	30	R3.8.24	14347-27249
14	64	出納	出納	JAL5496	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	30	R3.7.5	14178-27566
15	65	出納	出納	JAL5497	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	30	R3.7.13	14179-52523
16	66	出納	出納	JAL5498	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	28	R3.8.21	14346-47273
17	67	出納	出納	JAL5499	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	29	R3.8.25	14647-14648
18	68	出納	出納	JAL5500	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	29	R3.8.17	14642-28942
19	69	種	出納	JAL5501	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	29	R3.8.9	14646-28242
20	70	出納	出納	JAL5502	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	30	R3.7.15	14122-79142
21	71	出納	出納	JAL5503	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	29	R3.7.26	14122-79152
22	72	出納	出納	JAL5504	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	30	R3.8.23	14647-28943
23	73	出納	出納	JAL5505	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	29	R3.8.15	15158-04052
24	74	種	出納	JAL5506	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	33	R3.4.1	14122-79153
25	75	出納	出納	JAL5507	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	32	R3.5.10	14122-79173
26	76	種	出納	JAL5508	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	32	R3.4.19	13956-49266
27	77	出納	出納	JAL5509	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	28	R3.8.27	14647-04053
28	78	出納	出納	JAL5510	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	30	R3.7.5	14402-11652
29	79	種	出納	JAL5511	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	31	R3.8.17	14402-11594
30	80	出納	出納	JAL5512	滋賀県立 長岡工業高等学校	滋賀県大井町	本澤直	本澤直	本澤直	本澤直	31	R3.6.11	14402-11634



出品牛一覽

出品 番号	種別 種別	性別	登録名	母牛名 (出品母牛名)	父牛名	養育牛舎	血統			登録 年月	生年月日	飼育農家番号
							母	父	母父			
31	北陸	雌牛	JA青森20	鹿島農学校 乳牛三葉高等学校	群馬県山田市	群馬県	福之雄	栗原直也	福之雄	31	103.6.17	16026-64230
32	北陸	雌牛	JA6477ヤ	鹿島農学校 八雲中央高等学校	群馬県片岡市	群馬県	清光介	加藤大	加藤大	32	103.8.18	16723-28657
33	北陸	雌牛	JA6377ヤ	鹿島農学校 高橋中央高等学校	群馬県吾妻郡	群馬県	福之雄	西谷茂	菅原久	30	103.6.22	16331-28683
34	北陸	雌牛	JA7764	神奈川農学校 中央農業高等学校	神奈川県横浜市	神奈川県	福之雄	坂野昭	平塚浩	33	103.6.18	16024-41017
35	北陸	雌牛	JA6405	鹿島農学校 中央農業高等学校	富山県富山市	富山県	久津保重	佐藤勝	佐定孝	29	103.3.5	16146-62011
36	北陸	雌牛	JA7114C	鹿島農学校 大宮南高等学校	岐阜県岐阜市	岐阜県	佐藤隆	西澤邦之	西井哲	28	103.8.20	15446-62726
37	北陸	雌牛	JA7114C	鹿島農学校 加茂中央高等学校	岐阜県津市	岐阜県	菅原隆	橋本征三	坂野成康	30	103.6.21	16130-68888
38	北陸	雌牛	JA7114C	鹿島農学校 加茂中央高等学校	岐阜県津市	岐阜県	菅原隆	坂野邦之	坂野上	31	103.6.7	14153-69668
39	北陸	雌牛	JA7114	鹿島農学校 加茂中央高等学校	岐阜県津市	岐阜県	藤田中	西谷茂	藤田隆夫	28	103.8.21	14767-60818
40	北陸	雌牛	JA7114C	鹿島農学校 津市南高等学校	岐阜県津市	岐阜県	幸村勝	佐田久	平塚浩	30	103.7.2	16376-74826
41	北陸	雌牛	JA7114C	鹿島農学校 津市南高等学校	岐阜県津市	岐阜県	幸村勝	佐田久	佐田久	30	103.6.30	15942-60622
42	北陸	雌牛	JA全農福井本場	福井県福井市 福井県高等学校	福井県福井市	福井県	佐藤隆	杉本賢章	藤原孝	30	103.5.11	16231-62781
43	北陸	雌牛	JA全農加賀本場	福井県加賀市 福井県高等学校	福井県加賀市	福井県	加藤大介	加藤大介	加藤大介	31	103.8.8	16321-62791
44	北陸	雌牛	JA全農石川本場	福井県石川市 福井県高等学校	石川県野市町	石川県	佐藤隆	西谷茂	佐藤久	34	103.5.12	15926-25778
45	北陸	雌牛	JAしずね	福井県福井市 石川高等学校	高松県松山市	高松県	高松隆	佐藤隆	佐藤隆	33	103.3.24	16221-50678
46	北陸	雌牛	JAしずね	福井県福井市 石川高等学校	石川県富山県白	石川県	福之雄	菅原久	坂野昭	29	103.9.11	15888-32641
47	北陸	雌牛	JAカムフ	福井県福井市 富山県高等学校	富山県富山市	富山県	佐藤隆	佐藤隆	佐藤隆	30	103.5.11	13771-66629
48	北陸	雌牛	JAくま	福井県福井市 福井県高等学校	福井県福井市	福井県	幸村勝	坂野昭	菅原久	29	103.7.22	16219-66613
49	北陸	雌牛	JAくま	福井県福井市 福井県高等学校	福井県福井市	福井県	百谷直樹	佐田久	藤原孝	29	103.5.17	16219-66648
50	北陸	雌牛	JA福地経済圏	富山県富山市 富山県高等学校	富山県富山市	富山県	神野昭	佐藤隆	藤原孝	30	103.6.29	15994-67250
51	北陸	雌牛	JA福地経済圏	富山県富山市 富山県高等学校	富山県富山市	富山県	神野昭	佐藤隆	佐藤隆	30	103.8.28	15994-67261
52	北陸	雌牛	JA3703自家畜	富山県富山市 富山県高等学校	富山県富山市	富山県	佐藤隆	佐藤隆	佐藤隆	29	103.8.8	16347-14309
53	北陸	雌牛	JA3703自家畜	富山県富山市 富山県高等学校	富山県富山市	富山県	佐藤隆	佐藤隆	佐藤隆	29	103.8.14	16347-14318
54	北陸	雌牛	JA鹿島1411小	鹿島農学校 鹿島農学校	鹿島農学校	鹿島農学校	菅原隆	菅原隆	菅原隆	32	103.5.1	15386-16261
55	北陸	雌牛	JA鹿島1411小	鹿島農学校 鹿島農学校	鹿島農学校	鹿島農学校	菅原隆	佐藤隆	菅原隆	31	103.6.4	15386-17947
56	北陸	雌牛	JA鹿島1411小	鹿島農学校 鹿島農学校	鹿島農学校	鹿島農学校	菅原隆	佐藤隆	菅原隆	32	103.5.8	15346-17020
57	北陸	雌牛	JA鹿島1411小	鹿島農学校 鹿島農学校	鹿島農学校	鹿島農学校	菅原隆	佐藤隆	佐藤隆	32	103.5.18	16346-68879
58	北陸	雌牛	JAおん高島	鹿島農学校 鹿島農学校	鹿島農学校	鹿島農学校	菅原隆	佐藤隆	佐藤隆	32	103.4.25	15314-61557
59	北陸	雌牛	JAおん高島	鹿島農学校 鹿島農学校	鹿島農学校	鹿島農学校	菅原隆	佐藤隆	佐藤隆	29	103.8.4	16661-69464



選手宣誓／審査委員一覧

選手宣誓



島根県立出雲農林高等学校
(開会式)



福島県立会津農林高等学校
(枝肉共働会)

審査委員

	所属	役職	審査委員名
総合審査委員長	全国農業協同組合連合会	畜産総合対策部長	高橋 龍彦
審査委員長 (取組評価)	東京農業大学	農学部 デザイン農学科 食資源利用学研究室 教授	多田 耕太郎
審査委員 (取組・枝肉評価)	独立行政法人 家畜改良センター	鳥取牧場 場長	河村 正
審査委員 (取組評価)	公益社団法人 全国食肉学校	専務理事 学校長	小原 和仁
審査委員 (取組評価)	東京都立農産高等学校	校長	江森 忍
審査委員 (取組評価)	東京都立瑞穂農芸高等学校	農場主任 畜産科学科 主任教諭	伊勢 博祥
審査委員 (取組評価)	全国農業協同組合連合会	参事	落合 成年
審査委員長 (枝肉評価)	公益社団法人 日本食肉格付協会	専務理事	小林 淳二
審査委員 (枝肉評価)	帯広畜産大学	畜産学部 生命・食料科学 研究部門 教授	口田 圭吾
審査委員 (枝肉評価)	東京食肉市場株式会社	専務取締役	倉林 康樹
審査委員 (枝肉評価)	東京食肉市場株式会社	取締役	寺内 栄司
審査委員 (枝肉評価)	JA全農ミートフーズ株式会社	執行役員 牛肉事業統括本部 副本部長	前田 信吾



祝辞紹介（開会式）



この度はご盛会、誠にありがとうございます。また、お招きをいただき、ありがとうございました。

今年も、出場校、頭数ともに過去最多であると伺っております。全国の農業高校生が、日々熱心に和牛について学び、知識・技術の習得に取り組んでおられることを大変嬉しく、また、頼もしく感じます。

生徒の皆さんは、日頃、仲間とともに大切に牛を育てる中で、飼育技術にとどまらず、優しさ、たくましさ、あるいは、「我々はいのちをいただいて生かされている」といったことなど、たくさんの大切なことを学んでおられることと思います。

この度は、その成果を遺憾なく発揮されますとともに、全国の高校牛児が心をつなぎ、日本が世界に誇る和牛の未来をたくましく作っていただきたい、そんなふうに、思っているところです。

本大会のために大変なご尽力をされておられる関係の皆様、日頃より熱心に指導に当たられている先生方に心より敬意を表するとともに、生徒の皆さんにとって、実り多い大会となることを期待し、祝辞とさせていただきます。

令和6年1月18日
文部科学省初等中等教育局 参事官（高等学校担当）付
産業教育振興室 教科調査官
国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部
教育課程調査官

遠藤 友治



祝辞紹介(開会式)



皆さまこんにちは。全国農業高等学校長協会理事長を務めております。東京都立農芸高等学校長の吉野と申します。全国農業高等学校長協会を代表して、一言ご挨拶申し上げます。

まず、はじめに令和6年1月1日に発生しました能登半島地震により、お亡くなりになった皆さまのご冥福を祈るとともに、被災された皆さまの一日も早い復興を願い、お見舞いを申し上げます。

さて、私は正午過ぎに品川駅へ到着したところ、大きな荷物を持ち会場に向かう高校生を見付けました。直感的に高校牛児の皆さんだなと思いながら、会場でお会いできることを楽しみにしてこちらに参りました。

日頃から和牛の肥育をはじめとして、様々な農業に関する学習を熱心に取り組んでおられると思います。農業に関する学習はとても幅広く総合科学とも言われており、ただ単に1つの知識や技術ではなく、知識や技術を応用しながら学んでいることかと思えます。皆さんは、日々学習をしながら和牛甲子園に参加するために、勉強と管理の両立が求められ、本当に大変な道のりだと思えます。日々の地道な管理と努力を重ねることは容易ではありませんが、皆さんはその挑戦に立ち向かってきました。その両立は本当に大変な課題であり、学校生活の中で時間を切り分け、効率的に取り組むことは容易ではありません。

しかし、皆さんはその困難に立ち向かい、努力を続けてきました。その努力は、すでに素晴らしい成果となって現れています。やはり感じたことは、ただ単に和牛の肥育ということだけではなく、そこに至るさまざまな過程があり、チームとして協働していくこと、あるいは地域の応援なしには成しえないということもたくさんあると思えます。皆さんの取り組みは、協力と支援のネットワークを築く中で育まれてきたものであり、そのプロセスが成果につながっていると感じます。これからもその困難に立ち向かい、協力し合いながら、素晴らしい成果を築いていってください。

農業校長会といたしましては、畜産・動物、あるいは和牛肥育に関わる高校生を応援しています。未来の担い手として皆さん自身の経験を深めていただくとともに、本大会には全ての仲間が参加できているわけではないと思えます。学校に戻ったらぜひこの2日間の体験を報告していただき、一層の畜産業界を盛り立てていただくことを期待しております。

結びに、本大会の開催にあたり、主催者でありますJA全農様をはじめ関係の皆さまにこの機会をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。

それでは2日間、大いに活躍されることを期待しております。

令和6年1月18日
全国農業高等学校長協会 理事長
吉野 剛文



褒賞式あいさつ



褒賞式にあたり、ひとことごあいさつを申し上げます。
高校牛児のみなさん、2日間におわたっての熱い戦い、大変お疲れさまでした。また、指導にあられた先生方には、大会の運営に何かとご協力いただきありがとうございます。
昨日の体験発表会では、みなさんの和牛飼育に懸ける熱い思いや創意工夫あふれる取り組みに圧倒されました。また、本日の枝肉審査では、プロの農家並負けの高い技術レベルに大変驚かされました。

さて、日本の畜産を取り巻く環境は難しく、先行きも非常に見通しづらい状況にあります。穀物相場の上昇や為替の影響によって配合飼料や生産資材価格などが高止まりし、生産コスト高の状態が続いています。また、家畜疾病においては、鳥インフルエンザや豚熱など、経営を危うくする重要家畜疾病の発生が断続的に続いており、さらには気候変動やアニマルウェルフェアといった社会的課題への対応などが求められています。

このような状況下においても、全国の和牛生産者は愛情を込めて、日々懸命に和牛を育てておられます。生産者のたゆまぬ努力により、いまや日本の和牛は世界中で高い評価を受けています。

また、新型コロナウイルスの影響で低迷していたインバウンド需要は、昨年10月には訪日外国人客数がコロナ前の水準を上回るなど、回復傾向がみられます。和牛の輸出はコロナ禍により停滞しましたが、昨年一年間の実績は前年を超える見通しです。

全農グループでは、これまで国やJAGグループがすすめてきたさまざまな生産基盤対策の強化・拡充に加え、「ちょっといい日に和牛をたべよう!」を合言葉に消費喚起キャンペーンを展開しています。昨日、サプライズゲストとして登壇いただいた、なかやまきんに君さんを和牛応援団長に起用し、今後も和牛の消費喚起を図る取り組みをすすめて参ります。

この2日間、若いみなさんの熱意を肌で感じ、高校牛児のみなさんのためにも、日本の畜産を、この先もずっと持続可能なものにしなければいけない、全力を挙げてサポートしていかねばいけない、そのようにあらためて心に誓ったところです。

これから褒賞式に移りますが、結果に手応えを感じている方がおられる一方で、もう少しやれたのではないかと思う方もおられるかもしれません。この2日間の思いはそれぞれだと思いますが、結果のみにとらわれることなく、全国の仲間たちとのつながりを大切にしながら、これからも切磋琢磨していただければと思います。そして、この大会をみなさんの高校生活の思い出の1ページとしていただければ、主催者としてこれほど嬉しいことはありません。

むすびに、本大会の開催にご尽力いただいたすべての関係者のみなさまに心より感謝を申しあげ、私のあいさつといたします。ありがとうございました。

令和6年1月19日

全国農業協同組合連合会 常務理事

齊藤 良樹



祝辞紹介(褒賞式)



褒賞式に当たり、一言、御挨拶を申し上げます。

まず、はじめに、この度の能登半島地震の被災地及び被災された皆様方に対し、心より、お見舞い申し上げます。農林水産省を含め、政府あげて被災者への支援と一刻も早い復興に向け、全力で取り組んでまいります。

さて、今年度も、我が国の畜産業の将来を担う「高校牛児」の皆様が集い、「第7回和牛甲子園」が無事開催され、本日、成功裡に終えられたことに、心よりお慶び申し上げます。大会開催に御尽力されました、全国農業協同組合連合会をはじめ、関係者の皆様方に対して、深く敬意を表します。

高校牛児の皆様、第7回和牛甲子園への御出場、誠におめでとうございます。今回、それぞれの目標を達成できた皆様も、惜しくも一歩及ばなかった皆様も、新たな次の目標に向かって、引き続き、頑張ってくださいと思います。

皆様も御存じの通り、今や和牛は、日本の伝統的な食文化を代表する食材として、国内だけではなく、海外からも高く評価されており、我が国の農林水産物の輸出の主要を担う重要品目となっています。農林水産省としても、国内外の旺盛な和牛肉の需要に着実に応えていくため、生産基盤の一層の強化と、輸出の拡大に積極的に取り組んでいるところでです。

本日ここに集われた高校牛児の皆様には、高校を卒業された後も、この和牛甲子園の出場で培った知識や経験、仲間との繋がり等を活かし、地域の畜産業の発展、そして、我が国の畜産業全体の発展に御尽力いただきたいと、心から期待しております。

皆様のような若い方々のお力が、畜産業の発展には不可欠です。政府としても、未来に希望をもって畜産業に携わっていただけるよう、様々な形で皆様を応援していきたいと考えています。

最後に、「和牛甲子園」が今後も、高校牛児の皆様の子びや感動を分かち合う場として、さらに発展・成熟していきますことを心より祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

令和6年1月19日
農林水産省畜産局長
渡邊 洋一



祝辞紹介(褒賞式)



先にご紹介にあずかりました農畜産業振興機構の天羽です。この和牛甲子園に参加される皆さんのことを「高校牛児」と呼ぶのだと伺い、たいへん面白く、微笑ましいと思っています。改めまして高校牛児の皆様、こんにちは！
挨拶の前に一言。本年は、年始から大きな地震や事故、お見舞い・お悔み申し上げます。こういう時局でありますので、なおのこと、お肉を始めとする食料の安定供給の大切さについて期待され、再確認される時だと考えております。

さて、受賞された高校の皆様、おめでとうございます。また、情しくも受賞を逃された皆様も、素晴らしい取組をされたと思います。

私ども農畜産業振興機構alicは、国の政策に基づき、肉用子牛生産者補給金制度や牛マルキンなどで生産者の経営安定を図るなど、農畜産業の振興を担う団体です。皆様方の取組みを応援するため、和牛甲子園では理事長賞を贈らせて頂いております。

参加校は第1回の8県15校から、第7回となる今回は25道府県4校と着実に増加し、皆様の先輩方は既に全国の畜産の現場で活躍されているとも伺っております。

和牛の肥育は、期間が長く、日々の細やかな飼養管理も必要で、とても難しいものです。枝肉共働会の結果を伺うと、格付け5等級4等級が多かったとのこと、皆さんの技術の高さに感心しております。

また、取組みの概要については昨日の体験発表会で報告されましたが、「(和牛肥育や畜産業の諸課題の解決に向けて、高校生らしいユニークな発想で真摯に取り組んでいる姿に心底感銘を受けました。)私共としても将来を担う皆様の取組みを心強く感じており、高校牛児の皆様と大会関係者の皆様のご努力に心から敬意を表します。

和牛は世界に誇る日本の宝です。世界中から高い評価を受けておりますし、今後輸出も増えていくと思います。この宝を次の世代に継承してゆくため、また、高校牛児の皆様が将来の畜産現場で夢や希望をもって働けるよう、alicといたしましても、様々な形で支援を続けていきたいと思っております。

来年もまたこの甲子園で、皆様のご活躍ぶりに触れることを楽しみにしております。そして、いつの日か、畜産現場で働く皆様に、再びお会いできることを祈念致しまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は、本当におめでとうございます。

令和6年1月19日

独立行政法人農畜産業振興機構 理事長

天羽 隆



祝辞紹介(褒賞式)



皆さん、こんにちは。東京都中央卸売市場食肉市場の
船木です。

高校牛見全員が顔と顔を合わせて、芝浦に集うのは、1
年ぶりです。皆さんにとっては、初めてですね。

やはり1校、200名を超える参加者が一堂に会す、この
熱気とは格別です。今日のセリ場は、いつにない活気でした。

今回の大会でも初出場の学校があり、出場校は着実に
増えています。今後、挑戦したいという学校、出場予備

軍が更に持っているとも聞いています。

これから出場を目指す高校生にとっては、皆さんが目標になっていると思います。

そして、出場したならば入賞が目標となり、入賞したならば、さらに上を目指す。そのため
には知恵を絞って日々汗をかく。切磋琢磨する機会、目標が、和牛甲子園だと思います。

Webで皆さんの取組のプレゼンを見させて頂きました。審査結果は出ましたが、いずれも、
研究と実験の場でした。どうやって飼料の高麗に対応するか、肉質を良くする飼料の配合や給
与のタイミングをどうするか、自校農圃から良質な飼料は作れないかなど、地元の家畜研究所
から教えてもらったり、酒造会社や飼料会社と連携したりと、とてもアグレッシブ! だったと
思います。

狙った成果を得た学校、そうでない学校もありましたが、今までやっていなかったことへの
挑戦ですから、やってみなければ分かりません。科学的な検証をしっかりとって、どんどん蓄
積して行って欲しいと思います。いつか、飼料問題、SIXsにも対応できる答えが見つかると思
います。今後も期待しています。

今日は枝肉のセリでした。私も現場で見っていました。牛を出品できた学校にとって、これま
での成果が示されました。皆さんの牛の評価は如何だったのでしょうか? 思ったより良かったり、
もうちょっとだったり、育てた牛が実際にいくらで売れるのか、経済的な評価を受けました。

東京市場は全国からブランド牛が集まる場所です。東京は大きなマーケットですから、肉質
と価格、ともに多くの事業者、消費者に評価されます。良いモノはより引き合い強く、しっか
りと定着していきます。東京市場に出荷することをブランディングの戦略としている産地もあ
ります。皆さんが将来、畜産業を営む時には、東京市場を是非覚えておいてください。そして
出荷してください。

長くなりましたが、結びに、今回出場した生徒の皆さん、並びにJA全農、学校関係者の皆様
の、今後の御活躍を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

本日は、おめでとうございます。

令和6年1月19日

東京都中央卸売市場食肉市場 場長

船木 克彦



大会結果

【総合評価部門】

褒賞	学校名
最優秀賞	鹿児島県立 鹿屋農業高等学校

【取組評価部門】

褒賞	学校名
最優秀賞	岐阜県立 加茂農林高等学校
優秀賞	神奈川県立 中央農業高等学校
	鹿児島県立 市来農芸高等学校
優良賞	岐阜県立 大垣養老高等学校
	愛知県立 渥美農業高等学校
	宮崎県立 高鍋農業高等学校
審査委員特別賞	京都府立 農芸高等学校
	鹿児島県立 鹿屋農業高等学校
高校牛児特別賞	岐阜県立 加茂農林高等学校

【枝肉評価部門】

褒賞	学校名
最優秀賞	鹿児島県立 鹿屋農業高等学校 (出品番号57)
優秀賞	福島県立 会津農林高等学校 (出品番号13)
	岐阜県立 飛騨高山高等学校 (出品番号39)
優良賞	京都府立 農芸高等学校 (出品番号44)
	宮崎県立 高鍋農業高等学校 (出品番号51)
	鹿児島県立 市来農芸高等学校 (出品番号52)
審査委員特別賞	栃木県立 栃木農業高等学校 (出品番号23)

※優秀賞、優良賞に序列はなく、それぞれ体験発表順、出品番号順に記載



総合評価部門 最優秀賞
取組評価部門 審査委員特別賞
枝肉評価部門 最優秀賞

鹿児島県立 鹿屋農業高等学校

和牛肥育への情熱100% !!

受け継がれる技で育てた愛情満載「鹿児島黒牛」を全国へ



牛〜っと♡だきしめて ~私たちだけの牛系彼氏~



体験発表内容 「I LOVE 飛騨牛 ~未来を切り拓く私たちの挑戦~」





挑戦1
数物目標単の向上及び飼料費削減

調査内容
前年度との比較
①増加体重
②増産期間(2017-2018年度)
③飼料要求率
④体肉成績
⑤飼料費

飼料要求率の比較

挑戦2
ルーメンコントロールで健康牛の肥育

年間45万円 削減に成功
年間2.2t 給与に成功

スマート畜産の実践！！

〔参加校から寄せられた授賞理由コメント（抜粋）〕

発表方法

- ・発表者の発声がよく、声が通り、聴きやすい
- ・声に強弱・メリハリがあり、耳に入りやすい

資料作成

- ・整理を尽くした簡潔・明解な資料作成と提示方法
- ・背景にのぼり旗を設置して飛脚牛をアピールしながらも、パワーポイントに視線が向くように作りこまれた資料作成と無理のない論理展開

取組内容

- ・牛のルーメン内の温度のコントロール実験をした取組みの具体性
- ・飼料費の削減を実現するなど取組みの実効性
- ・プロジェクトの規模の大きさ（台湾での調査や飼料会社との区別等）
- ・IoTの先端技術を利用した取組みや、牛でのJGAP取得など高い挑戦性



和牛生産の地域共存を目指して。

都市化が進む海老名の地で、中農和牛の新たな挑戦！



体験発表内容 「中農和牛が繋ぐ地域の環 ～地域と共存した和牛肥育実現に向けて～」

中農和牛が繋ぐ地域の環

～地域と共存した和牛肥育実現に向けて～

4年までの取り組み

平成26年度 和牛肥育中心 | 平成27年度 ランクアップ

和牛を通じて
地域を笑顔にできる！



環境アップに向けた取り組み

環境美化
清掃活動
その結果！
環境美化
清掃活動



今年度の取り組み

実践1 専農経営



- 文の活用
- 畜産物の販売促進

実践2 地域への情報発信



- 飼育者の授業
- 畜産習志の開催
- 農産物直売プロジェクト

実践3 畜産物への関心

畜産物の活用



実践4 畜産物への関心

畜産物の活用



住宅が活用

実践5 畜産物への関心

畜産物の活用



「牛とふれあおう」

和牛の活用
和牛の活用
和牛の活用

実践6 畜産物への関心

畜産物の活用



和牛の活用
和牛の活用
和牛の活用

実践7 畜産物への関心

畜産物の活用



和牛の活用
和牛の活用
和牛の活用

実践8 畜産物への関心

畜産物の活用



和牛の活用
和牛の活用
和牛の活用

実践9 畜産物への関心

畜産物の活用



和牛の活用
和牛の活用
和牛の活用

実践10 畜産物への関心

畜産物の活用



和牛の活用
和牛の活用
和牛の活用

牛と共に夢を追い、牛と共に夢叶える。夢を叶えるために青春を捧げる我ら畜産部。



体験発表内容 「ミライはぼくらが創る！～今の困難な情勢を乗り越えるために～」

ミライは私たちが創る

～今の困難な情勢を乗り越えるために～



鹿児島県立市来農芸高等学校

取組 1 肥育技術の確立

出荷した3頭 BMS No.12 高校生の部 優秀賞



＝安定した肥育技術を確立

取組 2 商品性の向上

枝肉評価部門入賞ならず



小さな瑕疵が
大きな損失に…

取組 3 共進会へ向けて

県黒毛和種共進会出品！



若縫2区最優秀賞4席受賞

出品牛の紹介

《純種牛》純粋で可愛い性格
(母牛が安産できる胎盤に遺伝)



黒牛種・黒毛種・黒頭種

《金髪牛》良質で、人懐っこい性格
(ソノワンの体質 肉質にも優れる)



黒牛種・安産牛・金髪種

ミライは私たちが創る



高校牛児のみなさん一緒にミライを創りましょう！

太陽の神が平和な食卓を多くの人に届けます。陽和多出陣!!



体験発表内容 「健康な和牛にミニバラを添えて～あなたの食卓を彩ります～」



天真爛漫つむみすべアの大躍進！うちの好きな牛が大優勝... ってこと!?



体験発表内容 「安心・安全・幸せな牛舎 アニマルウェルフェア認証・普及に挑戦」



目標1 AW認証取得

認証制度の概要

- 農場審査を実施
- 各課80%クリアで認証

認証取得の利点

- 飼育管理改善に繋がる
- 取組を客観的に証明
- 消費者に効果的に伝わる

肉用牛の農場認証に挑戦

目標2 AWの普及

エシカル消費推進には「消費者意識」が重要

エシカル消費・ウェルフェアとの関連
購入・消費で知る機会少ない

アニマルウェルフェア実践だけでなく「エシカル消費」も重要

今年はこの2課で勝負！

<p>みすず号（導入）課 幸紀様、安福久、藤之國</p>	<p>つむぎ号（自家産）課 幸紀様、安福久、平茂勝</p>
----------------------------------	-----------------------------------

アニマルウェルフェアの実践・普及を
多くの人に伝えていく

アニマルウェルフェアとエシカル消費普及へ

持続可能な畜産経営・私たちの未来へ

私たち高校牛児の頑張りが
生産者・消費者の意識を変える



取組評価部門 優良賞 宮崎県立 高鍋農業高等学校

最高の宮崎牛で最高の笑顔を目指せ 日本1 ～えのきの力は無限大～



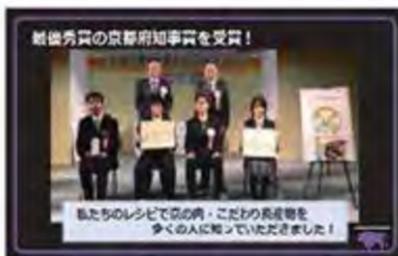
体験発表内容 「えのきでつくる 未来へ残る 牛づくり～高農和牛の挑戦～」



百年先の京都にも おいしい牛肉があるように未来の人の喜びとなるように 今を生きる



体験発表内容 「届けます!! 夢と希望をつめ込んで 京の肉で明日に向かう!」





取組評価部門 審査講評

第7回全国農業高等学校和牛枝肉共励会・和牛甲子園が、史上最多となる25県41校が参加し、品川グラウンドホールおよび東京都中央卸売市場食肉市場において、盛大に開催されましたことに対しお慶び申し上げます。

取組評価部門・体験発表について、審査委員を代表して審査結果についてご報告します。なお、審査は審査基準に則り、厳正中立かつ公平に実施しました。

体験発表の評価は、事前提出された動画および資料を基に実施しました。

生徒の皆さんは、記録的猛暑と長引く残暑もあり、例年に比べ日々の牛の管理が忙しかったかと思われそうですが、各校とも発表準備にも注力されたことが伝わる内容でした。

このうち、入賞を果たしたのは以下の各校です。

○最優秀賞 岐阜県立加茂農林高等学校

地域の畜産農家の抱える課題を解決するため、飼料費削減、健康牛の更育について挑戦しました。飼料米を用いた新たな配合飼料が有効であること、IoTを活用してルーメン温度を観察し、濃厚飼料割合を調整することで、経験則を要さずに健康な牛が育つことなどを明らかにしました。発表は況例と速度も良く、成果を聴者が理解しやすいように構成を工夫しており、審査委員一同から大変に高い評価を得ました。

○優秀賞 神奈川県立中央農業高等学校

住宅地が隣接する学校の立地条件からくる課題に着目し、地域と共存するための解決策を検討しました。近隣から臭いへの苦情が多いことから、悪臭軽減のために環境浄化微生物の利用とともにシエレッダーや粉殻を糞料に有効活用することが効果的であることを明らかにしました。農福連携へも積極的に取り組んでおり、審査委員一同から高い評価を得ました。

○優秀賞 鹿児島県立市来農芸高等学校

継続した肥育技術の確立の取り組みに加え、昨年度の出産牛で取組がみられたことから、この対策についても挑戦しました。産肥育牛の発情・乗駕行動を発情抑制剤投与で抑えることが環境発生リスクを減減させ、商品性を高めるかを検討する興味深い内容でした。発表は資料の情報量、説明速度も良く、理解しやすいもので、審査委員一同から高い評価を得ました。

○優良賞 岐阜県立大垣養老高等学校

消費者の求める美味しい牛肉について調査し、そのニーズに応えるため、牛の健康状態、肉質を改善する添加剤給与の効果などを検証しました。さらに、県特産品のミニバラ生産に活用できる排肥を開発し、地域へ還元もしており、審査委員の多くから高い評価を得ました。

○優良賞 愛知県立渥美農業高等学校

エシカル消費の観点から、アニマルウェルフェア認証に挑戦しました。試行錯誤しながら認



多田 審査委員

証基準を満たし、さらに消費者や生産者への普及を図るために理解しやすい配付資料を作成するなど、精力的な取り組みで、審査委員の多くから高い評価を得ました。

○優良賞 宮崎県立高鍋農業高等学校

これまでの牛床改善の取り組みを発展させ、地域の未利用資源である「えのきの菌床」を活用した飲料について種々の試験を行い、その有効性について明らかにしました。発表は情報量が適切で理解しやすく構成されており、審査委員の多くから高い評価を得ました。

○審査委員特別賞 京都府立農芸高等学校

地域の和牛文化が永く続くように、消費販売に重点を置いた取り組みを展開しました。

有名観光地である背景から、料理店での府外からの来客者も含めた消費者アンケートを実施し、京都産牛肉の魅力発信について検討した興味深い内容で高い評価を得ました。

○審査委員特別賞 鹿児島県立鹿屋農業高等学校

地域で問題となっている未利用資源である竹・笹を有効利用する継続活動に加え、枝内データと受精卵移植を活用した高能力牛群作りに挑戦しました。発表は深刻としており、地域資源だけで肥育牛を育てる夢の実現に向けて、今後の展開を期待する高い評価を得ました。

入賞を逃した各校も和牛生産・地域が抱える問題を解決すべく、仲間と一丸となって目標を達成するために“和牛”と向きあっていました。正に今大会のキャッチフレーズ「One for all All for 和牛！」を体現する高校生らしい取り組みばかりで、発表も熱意に溢れており、全審査委員から称賛の声が上がりました。

これらの取り組みは、生徒の皆さんの努力は勿論ですが、地域の方々が支援し、教職員の方が熱心に指導されていることが窺えるものでした。関係の皆様へ敬意を表しますとともに、今後も我が国の畜産を担う若人のためにご尽力いただきたく存じます。

今回は4年ぶりに完全な実参加での開催となり、皆さんが一堂に会しましたので、全国各地で同じ志を持ち頑張っている仲間と直に熱を感じながら繋がることができたとと思います。先輩“高校牛児”講話にて、「高校卒業後に和牛甲子園で出会えた他校の仲間と再会し、お互いに夢に向かって突き進んでいることを知り嬉しかった」との発言がありました。現役の牛児の皆さんも、今回知り合えた同志との繋がりを大切に、そして大いに活用して行って欲しいと思います。

和牛肉の味は格別で、私たちの健康で心豊かな生活を彩り、幸せと笑顔を届けてくれます。その魅力は海外へも伝わり、和牛への注目度は高まるばかりです。どうか、皆さんで「和牛文化」そして「日本の農業」をさらに勢い上げていってください。

主催者である全国農業協同組合連合会をはじめとする関係の皆様のご尽力により、全国の高校牛児のネットワーク構築を進める意義ある大会となりました。厚く感謝申し上げます。

本大会が末永く続くことを祈念し、取組評価部門・体験発表の審査講評と致します。

令和6年1月18日

東京農業大学 農学部 アデザイン農学科
食資源利用学研究室 教授

多田 耕太郎



体験発表会カンファレンス

【目的】

次回大会にむけて、課題の明確化とモチベーション向上に資するため、審査委員から体験発表の内容について講評・指導を受ける。

【各審査委員の講評・指導対応校一覧】

多田 審査委員長		河村 審査委員		小原 審査委員	
1	北海道洞知安農業高等学校	1	豊後学園大学附属ともの森三愛高等学校	1	青森県立三木木義葉恵拓高等学校
2	宮城県農業高等学校	2	福島県立会津農林高等学校	2	福島県立磐城農業高等学校
3	栃木県立栃木農業高等学校	3	栃木県立真岡北陵高等学校	3	栃木県立那須拓陽高等学校
4	富山県立中央農業高等学校	4	神奈川県立中央農業高等学校	4	岐阜県立大垣養老高等学校
5	滋賀県立長浜農業高等学校	5	広島県立西条農業高等学校	5	島根県立出雲農林高等学校
6	宮崎県立高嶺農業高等学校	6	長崎県立諫早農業高等学校	6	熊本県立南陵高等学校
7	鹿児島県立鹿屋農業高等学校	7	鹿児島県立首於高等学校	7	広島県立庄原実業高等学校
江森 審査委員		伊勢 審査委員		落合 審査委員	
1	岩手県立水沢農業高等学校	1	岩手県立盛岡農業高等学校	1	岩手県立花巻農業高等学校
2	茨城県立水戸農業高等学校	2	栃木県立宇都宮白楊高等学校	2	栃木県立鹿沼南高等学校
3	栃木県立矢板高等学校	3	群馬県立吾妻中央高等学校	3	群馬県立利根実業高等学校
4	岐阜県立加茂農林高等学校	4	岐阜県立飛騨高山高等学校	4	愛知県立海美農業高等学校
5	岡山県立瀬戸南高等学校	5	山口県立大津緑洋高等学校	5	京都府立嵯峨高等学校
6	佐賀県立唐津南高等学校	6	鹿児島県立市来農業高等学校	6	鹿児島県立鶴翔高等学校
7	福岡県立糸島農業高等学校	7	大分県立久住高原農業高等学校		



多田審査委員長



河村審査委員



小原審査委員



江森審査委員



伊勢審査委員



落合審査委員

【取組評価部門 多田審査委員から高校牛児へのメッセージ】

今回も新たな参加校があり合計41校となり、第1回（参加15校）から携わっている私は、大きく成長し、益々活気のある体験発表会となったことが大変に嬉しいです。単に参加校が増えただけでなく、年々レベルアップする皆さんの素晴らしい発表が加わっているのですから尚更です。皆さんも事前に配信された発表動画を観て、他校の取り組みに興味を持ったのではありませんか？大会中に他校の生徒と直ぐに打ち解け、熱く語り合っている光景を目にし、和牛甲子園の目的である「同じ志を持つ生徒同士が、切磋琢磨し合うような交流の場を創出する」が実現していることを強く感じました。

今回は、和牛生産を取り巻く苦しい現況を打破するべく、飼料や環境の問題に対応する生産の立場からの取り組みの他、消費者側からの目線と和牛肉の価値を検討し、今後の“和牛”について考える活動もありました。豊かな発想力で多角的な視点からチャレンジすること、これは“安全な失敗”（失敗を恐れずに挑み、失敗してもそこから学び成長する）が許され推奨される高校生である皆さんならではの取り組みです。

皆さんが向き合っているのは、“和牛”という生き物・命です。休み無く面倒を見なくてはなりません。仲間と意見をぶつけ合い、協力して取り組むなかで、強くなやかな人間力が培われた筈です。どうかその能力をフル活用して、他者の幸福を思い、世に貢献する社会人となってください。皆さんの益々の活躍、期待しています！





枝肉評価部門 最優秀賞 鹿児島県立 鹿屋農業高等学校

和牛肥育への情熱100%!!

受け継がれる技で育てた愛情満載「鹿児島黒牛」を全国へ



出品番号: NO.57 枝肉重量: 635kg
性別: 去勢 等級: A5
B M S: 12



枝肉評価部門 優秀賞 福島県立 会津農林高等学校

精一杯、愛情込めて育てました!自慢の黒べこ見ていがんしょ!



出品番号: NO.13 枝肉重量: 508kg
性 別: 去勢 等 級: A5
B M S: 12



枝肉評価部門 優秀賞 岐阜県立 飛騨高山高等学校

ともみ系は肉でも日本一 ～僕らの稲わら大作戦～

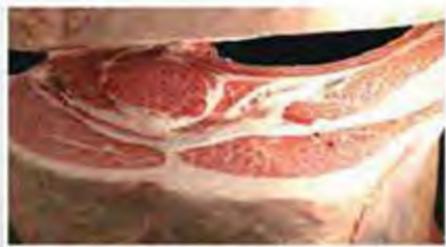


出品番号: NO.39 枝肉重量: 409kg
性 別: 雌 等 級: A5
B M S: 12



枝肉評価部門 優良賞 京都府立 農芸高等学校

百年先の京都にも おいしい牛肉があるように
未来の人の喜びとなるように 今を生きる

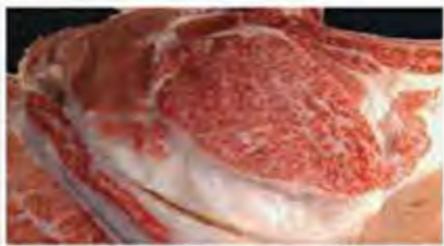


出品番号: NO.44 枝肉重量: 609kg
性 別: 去勢 等 級: A5
B M S: 12



枝肉評価部門 優良賞 宮崎県立 高鍋農業高等学校

最高の宮崎牛で最高の笑顔を
目指せ日本1 ～えのきの力は無限大～



出品番号: NO.51 枝肉重量: 596kg
性 別: 去勢 等 級: A5
B M S: 12



枝肉評価部門 優良賞 鹿児島県立 市来農芸高等学校

牛と共に夢を追い，牛と共に夢叶える。
夢を叶えるために青春を捧げる我ら畜産部。

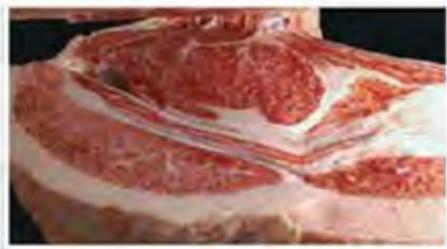


出品番号：NO.52 枝肉重量：619kg
性 別：去勢 等 級：A5
B M S：12



枝肉評価部門 審査委員特別賞 栃木県立 栃木農業高等学校

動物科学科みんなの思いを込めた栃農和牛を全国へ！！



出品番号：NO.23 枝肉重量：689kg
性 別：去勢 等 級：A5
B M S：11



小林 審査委員長

今年度も「和牛甲子園」が開催され、第7回目を迎えました。昨年5月に新型コロナウイルス感染症の取り扱いが5期に変更になったことにより、こうして皆さんと一堂に会しての表彰式が行われたことは誠に喜ばしい限りです。

私は第1回から3回の審査を担当させていただき、今回久しぶりの審査をさせていただきましたが、大会の規模、枝肉の品質も格段に立派になっておりびっくりしています。

また、第2回大会に生徒さんで参加されていた方が、現在は教員になって後進の指導にあたっておられると聞き及んでいます。大変嬉しく思います。

参加された3年生の皆さんは今後、繁殖や肥育農家の後継者として実践に足まれる方、進学される方など様々な道に進まれると思いますが、是非今後も畜産に携わっていただきたいと思います。格付協会に入って格付員の道もあります。30年、40年後に今私が立っている場所で審査講評をするという道もあります。一緒に仕事ができればこの上ない喜びです。進路選択の一つに入れていただければ幸いです。

この和牛甲子園の開催にあたって、主催された全国農業協同組合連合会のスタッフの皆さんにおかれては1年がかりの準備で大変ご苦労が多かったことと思いますが、開催にかける思いや愛情は参加された高校生にしっかりと届いていることと思います。ご尽力いただいたことに敬意を表するとともに、ご披露させていただきます。本当にお疲れ様でした。

それでは枝肉評価部門の審査委員を代表して審査の概要と結果をご報告申し上げます。

審査につきましては、日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格、関係要領にある審査基準に基づき枝肉を総合評価して、厳正、公平に行っておりますことをお伝えしておきます。

今回の枝肉評価部門出場校・出品頭数は、北は北海道から南は鹿児島県まで、19道府県35校より黒毛和牛雌13頭、去勢牝頭の総計59頭となりました。

黒毛和牛 雌（13頭）

校名	コース	はら	皮下	基準値	歩留		肉質		日付差		BPS
					〔A〕%	〔B〕%	〔4〕%	〔5〕%	〔10〕%	〔10〕%	
前頭	472.4	72.8	8.6	3.6	75.5	100.0	94.4	100.0	10.4	72.2	3.5
今頭	499.8	76.5	8.4	2.8	76.2	100.0	84.6	100.0	10.6	89.2	4.0
全国	439.3	61.5	7.5	2.6	74.6	87.3	47.9	74.0	7.3	26.2	4.0

※全国値はC/D版牛枝肉格付情報 令和5年次（1-12）

黒毛和牛雌では、歩留等級「A」率が100%でした。全国平均は87.3%ですから良い結果であったといえます。雌の特長として脂肪付着が厚くなる傾向が高いのですが、皮下脂肪の厚さの平均は2.8cmと昨年より顕著な厚さとなっています。

歩留基準値の平均は76.2で全国値74.6を上回りました。

枝肉重量の平均値は全国平均より約60kg大きく、胸筋長筋面積平均76.5cmと前回の72.8cmに比べて大きく良い成績でした。皮下脂肪厚は4cm以上になると「B」等級になる可能性が高くなりますから適度



枝肉評価部門 審査講評

な厚さになるように管理することが重要です。

肉質についてみると、「5」等級は84.6%で、「4」等級以上率は100%でした。申し分ありません。特に離れ飼養管理が難しいと云われる中で良く出来ていたといえます。BMS%の平均は10.6で、昨年と平均2桁差を維持している点、全国平均との比較からもとても良い結果であったと思います。「肉の色沢」については光沢が良く、「脂肪の質」についても柔らかく、光沢、粘りの良いものが多くありました。今回全ての脂肪の脂肪酸測定を行いました。食味に良い効果があるといわれるオレイン酸平均値は54.4%で、一般的に55%以上は好ましい数値といわれていますので脂肪の質が良かったことと関係していると思います。

黒毛和牛去勢【去勢：46頭】

	背高	コース	ばら	皮下	肉厚	肉質	脂肪		BMS		B.C.S
							5	4	平均	10%	
前回	561.9	77.6	9.3	3.1	75.9	94.6	81.1	100.0	10.1	54.9	3.4
今回	558.0	77.5	9.2	2.6	76.3	100.0	91.3	97.8	10.7	52.6	3.9
全国	514.5	68.9	8.4	2.4	75.4	97.7	64.8	92.2	8.6	40.1	3.7

※全国値は CD 返牛枝肉格付情報 令和5年次 (1-12)

黒毛和牛去勢でも、多留等級「A」率が100.0%という成績でした。全国平均は97.7%ですから、大変良い成績であったといえます。

枝肉重量についてみますと今回の平均は558.0kgで全国平均重量よりも約40kg大きい結果となっています。牛が大きく育つということは健康に育った証であり、何よりも評価して良いと思います。ちなみに出品牛の最大は689.0kgでした。胸最長筋面積は、平均77.5cm²で全国平均68.9cm²を大幅に上回っております。また、ばらの厚さは、平均9.2cmで昨年とはほぼ変わらず、皮下脂肪の厚さは平均2.6cmで適度であります。

和牛甲子園での平均値は、格付された全国平均値と比較しても素晴らしい結果でありました。ただ、平均値に届かない高等学校もありましたので、開催目的でございます「我が国の畜産を担う高校生の育成とネットワーク作り」の精神を活かして、肥育等に関する技術を共有して全体的な底上げを図っていただければ幸いです。

肉質については、「5」等級率は91.3%、「4」等級以上率は97.8%と素晴らしい結果となりました。昨年BMS%の平均が2桁台の10.1となりましたが、今年は10.7とさらに良い成績となっています。「肉の色沢」も良いものが多く、健康に育てられた結果であると思います。脂肪質については、オレイン酸平均値52.9%でした。やや光沢がなく、硬い脂肪が見られたことと関係があるものと推察されます。食味の良い脂肪のオレイン酸値は55%以上といわれていますので、一つの基準として覚えておいていただけたらと思います。

【瑕疵の発生】 (単位：頭)

	ア	イ	ウ	エ	イ	ホ	計
前回			1(1.8)	2(3.6)		1(1.8)	4(7.2)
今回		2(3.4)	1(1.7)	5(8.5)		4(5.8)	12(20.3)

取疵の発生が12頭ありました。用品牛の30.3%の枝肉に取疵があったこととなり、前回より増加しました。割断などの重大な取疵はありませんでしたが、外傷（アタリ）が5頭、割断筋や胸腔にある後横筋のうっ血（取疵表示：カ）が1頭ありました。取疵は枝肉としての商品価値を低下させますので引き続き丁寧な扱いをしてください。

この様な中、深えある枝肉評価部門の最優秀賞に出品番号107号、鹿児島県立鹿屋農業高等学校の去勢牛を選抜いたしました。

出品番号：107			受賞者：鹿児島県立鹿屋農業高等学校							
種 級	BMSNo	枝肉重量	基準値	ロース	ばら	皮下	BCSNo	後縦筋	わ/バ/連	
A5	12	635.0	81.4	107	11.3	1.7	4	5.2	49.2	

生後月齢32か月、枝肉重量635.0kg、ロース面積107cm²、ばらの厚さ11.3cm（割断筋5.2cm）と充実し、皮下脂肪の厚さは1.7cm、多留基準値は81.4、大股牛ながら前・中・後継の厚み、バランスとも理想的で迫力ある枝肉でした。東京市場では毎日のように共助会が実施されており、本日も何件かの共助会がありました。それらの共助会のチャンピオンにも劣らない大変素晴らしい枝肉でした。おめでとうございます。

優秀賞2点は

出品番号63号、福島県立会津農林高等学校の去勢牛です。最優秀賞に僅差で及びませんでした。小ささが充実しており美しい枝肉と表現できるものでした。欲を言えば切開面のばらの厚さがもう少し厚ければ申し分なかったと思います。観づくりを頑張ってください。

出品番号89号、岐阜県立飛騨高山高等学校の雄牛です。こちらは雄牛らしくコンパクトで枝肉の厚みがあり品のある枝肉でした。ロース芯の頭半横筋側の脂肪交雑がやや粗目で流れていたのが惜しまれますが枝肉の姿が特に良く、肥育が難しいといわれるメスで出品を続けておられ、毎頭入賞している肥育技術は素晴らしいと思います。立派でした。

優良賞3点は

出品番号94号、京都府立農業高等学校の去勢牛です。後縦筋が55cmもあり切開面に迫力がありました。若干脂肪粒が大きいのがサシであったのが惜しまれるところで。

出品番号101号、宮崎県立高鍋農業高等学校の去勢牛です。背筋筋の厚さは特筆すべき厚さでした。去勢牛ながら光学測定によるオレイン酸値は54.1%で脂肪の質、締まりがとてとてもよく、誤解を恐れず申し上げるとすれば、宮崎牛らしい脂肪の質の良い牛でした。

出品番号102号で、鹿児島県立市来農業高等学校の去勢牛です。肉の光沢が抜群で健康に育ってきたことをうかがわせる枝肉でした。加えて後縦筋の厚さは5.2cmで切開面に迫力がありました。脂肪の質についてはやや硬めであったので、これからの課題にしてください。



枝肉評価部門 審査講評

なお、審査委員特別賞には出品番号73号、栃木県立栃木農業高等学校の去勢牛を選びました。上位6点には及びませんでしたが、特筆すべきは枝肉の厚みが優れていたことです。審査前日の夕方に下見で冷蔵庫に入りましたが、姿かたちが良く、前、中、後軀のバランスの良い枝肉でした。特にサーロイン部の厚さはどの枝肉よりも厚く、生体時の體元はさぞかし迫力があったことなのでしょう。審査委員全員異議無く了承されました。

その他、入賞は逃しましたが、福島県立磐城農業高等学校の出品番号64号、鹿児島県立鶴翔高等学校の出品番号105、鹿児島県立曾於高等学校の出品番号109号は眼疵がなければ入賞を獲っていました。栃木県立鹿沼南高等学校の出品番号71号、広島県立西条高等学校の出品番号96号は枝肉のプロポーションが良く、肉質もよい枝肉でした。愛知県立渥美農業高等学校の出品番号91号は肉色が明るく鮮明で、光沢が鮮やかなとてもいい枝肉でした。岩手県立水沢農業高等学校の出品番号55号、56号はオレイン酸値がそれぞれ58.4%、57.2%と高く、脂肪の質は群を抜いており、光沢、締まり、粘りがあり、これから和牛に求められる脂肪質であるといつて差し支えない良い脂肪でした。

名前を呼ばれなかった高等学校においても素晴らしい点は多々ありました。時間の関係上割愛しますが、来年に向けて頑張っていただきたいと思います。

入賞された各高等学校の皆さん誠におめでとうございます。入賞された各高等学校に賞状下さることをお願いするとともに、「和牛甲子園」が今後も未永く続くことを祈念して審査報告といたします。

令和6年1月19日

審査委員長（枝肉評価部門）

公益社団法人日本食肉格付協会

専務理事 小林 淳二

【参考：今回惜しくも入賞を逃したものの小林審査委員長より賞状された出品牛】

評価理由（審査講評より抜粋）	出品番号	出場校
眼疵が憎まれる優秀な出品牛	64号	福島県立磐城農業高等学校
	105号	鹿児島県立鶴翔高等学校
	109号	鹿児島県立曾於高等学校
プロポーションがよく、肉質が優れた出品牛	71号	栃木県立鹿沼南高等学校
	96号	広島県立西条農業高等学校
肉色が明るく鮮明、光沢が鮮やかな出品牛	91号	愛知県立渥美農業高等学校
オレイン酸値が高く、脂肪質に優れた出品牛	55・56号	岩手県立水沢農業高等学校



審査ならびに枝肉の撮影にあたって



和牛甲子園が久しぶりの全面対面で開催できましたことを心から嬉しく思います。この素晴らしい大会に参加いただいた高校牛児の皆様、主催者の皆様、そして私に枝肉部門の審査および枝肉撮影の機会をあたえてくださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。大会が盛況に終わり、私にとっても高校牛児と直接交流する良い機会となりました。皆様と対面し、コミュニケーションをとることは本当に特別なものでした。

和牛甲子園での体験は、高校牛児たちが手觸りまかけて育てた和牛かと畜され、枝肉となり、それがプロの目で評価され、セリにかけられるといった一連のプロセスを実際に経験できる非常に貴重な機会であると強く感じました。皆様と直接お話しできたことが特に印象深く、臨場感あふれる瞬間を共有できたことは非常に嬉しいことです。成長過程を間近で見えてきた高校牛児たちにより愛情を込めて育てられた和牛が、最終的に枝肉として評価され、市場にかけられる様子は、農業や畜産の本質を感じさせられる瞬間でした。直接交流することで、彼らの情熱と努力がどれほどのものであるかを理解し、畜産に対する深い愛情と誇りに触れることができました。

今年は、全部で59頭の枝肉を審査させていただきました。それと同時に枝肉のロース芯や外観の写真を撮影させていただきました。今回の撮影に使用した機材は、MJJ-15撮影装置とMJJ mobileならびにWagyu Cameraという携帯アプリです。これらの機材を使用して撮影した写真を皆様方にお送りさせていただきました。撮影の最中の短い間ではありましたが、高校牛児や指導して下さっている教員の方々と直接お話しする機会もあり、皆さんの真剣な取り組みの姿勢がひしひしと伝わってまいりました。

ところで、東京食肉市場のセリ場は、私が仕事でちよくちよく行く場所ですが、あれほどたくさんの人であふれかえった様子を見たのは初めての経験でした。今回お送りさせていただきました画像を、次回以降の大会に向けて改善の方向性を考える際の材料として活用していただければ幸いです。

和牛甲子園の、この一連のプロセスは、プロの肉牛生産者としての視点を含め、将来の肉牛産業における持続的な発展につながることを期待されることを実感しました。これからも和牛甲子園が、若い世代にとって畜産の魅力を存分に体験できる場であり続けることを期待しています。

帯広畜産大学 畜産学部
生命・食料科学研究部門 教授

口田 圭吾

※すべての出品牛の画像データは、帯広畜産大学・口田圭吾研究室の協力により、和牛甲子園公式ホームページよりご覧いただけます。

<https://wagyu-koushien.com/main/koushien01-study-2/>



No.51 北海道倶知安農業高等学校



No.52 酪農学園大学附属とわの森三愛高等学校



No.53 青森県立三本木農業恵拓高等学校



No.54 青森県立三本木農業恵拓高等学校



No.55 岩手県立水沢農業高等学校



No.56 岩手県立水沢農業高等学校



No.57 岩手県立盛岡農業高等学校



No.58 岩手県立盛岡農業高等学校



No.59 岩手県立花巻農業高等学校



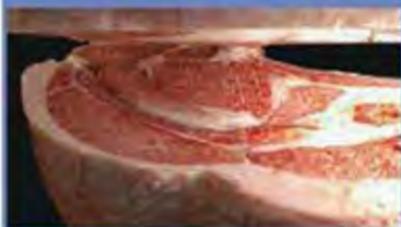
No.60 岩手県立花巻農業高等学校



No.61 宮城県農業高等学校



No.62 福島県立会津農林高等学校



No.63 福島県立会津農林高等学校



No.64 福島県立磐城農業高等学校



No.65 福島県立磐城農業高等学校



No.66 茨城県立水戸農業高等学校



※枝肉No順に掲載



枝肉断面一覧

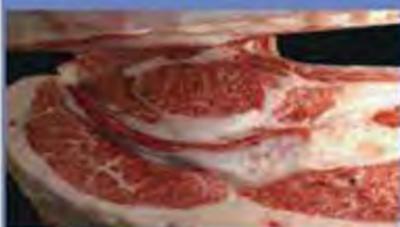
No.67 茨城県立水戸農業高等学校



No.68 栃木県立宇都宮白楊高等学校



No.69 栃木県立宇都宮白楊高等学校



No.70 栃木県立鹿沼南高等学校



No.71 栃木県立鹿沼南高等学校



No.72 栃木県立栃木農業高等学校



No.73 栃木県立栃木農業高等学校



No.74 栃木県立那須拓陽高等学校



※枝肉No順に掲載

No.75 栃木県立那須拓陽高等学校



No.76 栃木県立真岡北陵高等学校



No.77 栃木県立真岡北陵高等学校



No.78 栃木県立矢板高等学校



No.79 栃木県立矢板高等学校



No.80 群馬県立利根実業高等学校



No.81 群馬県立利根実業高等学校



No.82 群馬県立吾妻中央高等学校



※枝肉No順に掲載



枝肉断面一覧

No.83 群馬県立吾妻中央高等学校



No.84 神奈川県立中央農業高等学校



No.85 富山県立中央農業高等学校



No.86 岐阜県立大垣養老高等学校



No.87 岐阜県立加茂農林高等学校



No.88 岐阜県立加茂農林高等学校



No.89 岐阜県立飛騨高山高等学校



No.90 愛知県立渥美農業高等学校



※枝肉No順に掲載

No.91 愛知県立渥美農業高等学校



No.92 滋賀県立長浜農業高等学校



No.93 滋賀県立長浜農業高等学校



No.94 京都府立農芸高等学校



No.95 島根県立出雲農林高等学校



No.96 広島県立西条農業高等学校



No.97 佐賀県立唐津南高等学校



No.98 熊本県立南稜高等学校





枝肉断面一覧

No.99 熊本県立南稜高等学校



No.100 宮崎県立高鍋農業高等学校



No.101 宮崎県立高鍋農業高等学校



No.102 鹿児島県立市来農芸高等学校



No.103 鹿児島県立市来農芸高等学校



No.104 鹿児島県立鶴翔高等学校



No.105 鹿児島県立鶴翔高等学校



No.106 鹿児島県立鹿屋農業高等学校



※枝肉No順に掲載

No.107 鹿児島県立鹿屋農業高等学校



No.108 鹿児島県立曾於高等学校



No.109 鹿児島県立曾於高等学校



※枝肉No順に掲載





先輩“高校牛児”講話

先輩“高校牛児”による進路講話

目的：進学・就職を控えた現役高校生にとって関心の高い進路選択の事例研究として、和牛甲子園出場経験者が体験に基づく講話おこなうことで、参加生徒の進路選択のための一助とする。

講話者：第3回・第4回総合評価部門 最優秀賞受賞校 鹿児島県立市来農業高等学校の卒業生3名

内容：高校生の進路・職業選択のためのケーススタディー

方法：司会者との質疑応答・対話形式による講話

今回登場する先輩牛児のプロフィール

中野母 陸斗 様：

高校卒業後、鹿児島県立農業大学校へ進学し、人工授精師や家畜商などの資格取得や、黒毛和牛使用管理におけるスキルアップなどに取り組んできました。この4月から株式会社オクトファームに入社し、生産牛管理の業務に携わっています。

現役牛児の方々には、非農家から牛に携わってきたからこそ見えてきたものなどお話ししたいです。

“進んだ先に道は開ける！高みを目指せ、高校牛児！”



上田平 夏美 様：

卒業後、東海大学農学部に進学。牛と“牛児”が大好きな私は、「農業という職業を輝かせたい、農業に携わっている人間の輝きを社会に向けたい」と「記者」を目指しています。農業と社会をつなぐメディアを理解するため、2年終了時に休学し、株式会社南日本放送に契約社員として入社。来年度より東海大学文化社会学部に転入学予定です。

高校牛児を終えた今の私にとっての“牛児からの道”や和牛甲子園のお話を皆さんとできればと思います！

“高校牛児は日本の光、今を輝け”



宮下 未来 様

高校卒業後、鹿児島県立農業大学校に進学し、人工授精師や剖検師の資格など様々な資格を取得しながら、牛についての知識を深めてきました。

今年の3月に農業大学校を卒業し、1月からは実家である株式会社ミヤボク宮下牧場で働いています。

社会人としての経験は浅いですが、皆さんのお役に立てるような話ができたらなと思っています。

“皆さんの可能性は無限大です。夢に向かって挫折せず進め！高校牛児！！”



＜講話要旨＞

部活動として「和牛」に没頭した高校生活の思い出、高校卒業後の進学選択の経緯とその後の学び、そして就職活動から現在に至るまで、実体験に基づき語っていただきました。「和牛」への情熱と積極的に人生を切り開く姿勢は参加した高校牛児を励まし、心に響く講話となりました。

先輩牛児から後輩牛児へ贈るメッセージ

中養母 陸斗 様

4年ぶりに和牛甲子園に参加させていただき、高校牛児の熱意と日々の努力に私たちも学ぶところが多かった2日間でした。これから社会に出る方、もっと専門的に学ばれる方、それぞれの進む道で、たくさんの壁にぶつかり、また、立ち止まってしまうこともあるかもしれません。

しかし、これまでの努力や学びは必ず報われます。

これからも歩みを止めず、頑張ってください!



上田平 夏美 様

農業高校で過ごした3年間、人生を一歩踏み出すとき、自分を信じてみる力に絶対になります。高校牛児ということを感じる存分活用して、沢山の経験を積んでください!



宮下 未来 様

高校牛児の皆さん、和牛甲子園お疲れ様でした!
会場に溢れる皆さんの熱気やレベルの高い取り組み発表に圧倒されました。

これから皆さんは様々な困難に立ち向かわないといけない時がくるかと思いますが、高校生活で培ってきた多くの知識や技術、経験を武器に乗り越えていけるはずだと思います。

2日間、私自身もとても刺激をもらい勉強になりました!!

これからも頑張ってください!



演題：「私の進路選択と食肉業界」

—世界を駆ける“着物ブッチャー”、高校牛児へのメッセージ—

講演者：“着物ブッチャー”こと“お肉”の技術と“和牛”文化の伝道師
渡邊 麻莉夏 様



講演者プロフィール：

1994年神奈川県生まれ。中央大学文学部仏文科卒業。

大学入学時は高校の英語の教師を目指していましたが、学生時代にアルバイト先で「お肉」とくに“和牛”にふれて、その魅力に夢中となり、「和牛の道」にはまりこんでいます。

大学を卒業してからは、お肉と和牛の魅力を伝えるために、修行を続け、途中で頭部のケガに見舞われましたが、現在は「着物ブッチャー」として、得意の英語と精肉加工の技術を生かして、海外に日本の技術と調理方法だけでなく、和牛の文化と魅力を広げるべく、活動を続けています。

そして現在はセカンダリー部位の普及に全力を注いでいます。

今回は、高校牛児の皆さんを前にして、海外における和牛の可能性を中心にお話をしたいと思えます。

講演要旨：

前回に続き、進学・就職を控えた現役高校生の進路選択のケーススタディとして、司会者との対話形式による講演を行いました。

高校の英語教師を目指していた大学生が、アルバイト先で短角牛のトウガラシに包丁を入れたことをきっかけに、「天職」に目覚め、職人気質の食肉加工の世界に飛び込み「着物ブッチャー」に変身。そこから、世界を駆ける大活躍が始まりました。

その和牛への情熱は高校牛児の共感を得るとともに、修行中に大きなケガに見舞われながらも夢を諦めず「道」を切り拓く姿は、高校牛児へ挑戦への勇気を与えました。

「高校牛児は日本の畜産業の「宝」との激励のメッセージをいただき、会場も大いに沸き立つ充実の講演となりました。

【高校牛児たちへ贈る言葉】

日本の宝ものであるキラキラした高校牛児の皆さんと関わることができてとても嬉しく思います。また、世界と互角に渡りあう日本の畜産の未来を確信しました。

とにかく心と身体のケアは忘れずに。

世界で皆さんのことを待っています！



和牛甲子園に参加して

北海道 倶知安農業高等学校



私は、今回初めての参加でしたが、自分たちで育てた牛の筋肉を見て、安心しました。産肉飼料を考えた牛の肉がどのような肉になったか、この目で見て確認することができたので、とても良い経験になりました。今後は、今回の和牛甲子園の結果を加え、更に取り組みや飼育方法を改善し、更に良い牛肉を生産できるように頑張りたいと思います。ありがとうございます。

(20期 豊心)

私は昨年2回目の和牛甲子園参加でしたが、昨年度と違ったプログラムだったこともあり、和牛と和牛生産について、より岡山のことを学ぶことができました。全国の同じ志を持つ高校生たちと和牛を通じて繋がりが、お互いに励み合うことができたので、自分自身の成長にも繋がったと思います。ありがとうございます。

(山内 彩花)

酪農学園大学附属 とわの森三愛高等学校



今回の和牛甲子園はとわの森で初めての出席でした。色々な高校の筋肉や発表を聞いてそれぞれの地域で飼育の仕方が全然違い

ました。特に宮城県産の筋肉は凄かったです。枝ががっしりしていて肉質もよく、大きかったです。今回の和牛甲子園をきっかけとしてこれからも肉牛を盛り上げていきたいです。(十河 三恵郎)

今回の和牛甲子園で一番印象に残ったのが鹿児島県の発表を見て地味の人達と協力しながら匂い覚悟など北海道とは違った特徴点を解説していたのが印象に残った。学生だからと加工の処理の仕方や畜舎の対策などをどのようにしているかです。

(水野 悠哉)

実業は農業ですが、高校に入り初めて和牛の飼育に関わりました。肥育はもちろんですが、出荷するのにも筋肉を見るのも初めてのことが多くとても良い経験になりました。自分たちに足りないものは何か考えなおし、今後に生かしていきたいです。

(形清 治美)

青森県立 三本木農業専拓高等学校



私は今回初めて和牛甲子園に参加しました。他の学校ではどのような方法で管理しているのか、また、どのような活動をしてい

るのかを知ることができ、とても有意義な機会となりました。(村松 誠生)

初めて和牛甲子園に参加して全国でおこなわれている研究活動を知ったり、出荷された牛の筋肉を観望したりするなど、普段授業では学べない事を経験することができ、楽しい時間を過ごすことができました。(三浦 真斗)

和牛甲子園に初めて参加して、全国の高校生たちが美味しい牛肉を作るために努力、工夫していて、とても感動しました。さらに知識を深めていき、後継者として将来の夢につなげていきたいと思いました。(鈴木 紅花)

初の和牛甲子園で全国の高校の生徒と交流することで新しい発見や知らなかった事を教えてもらい、興りある2日間になることができました。これからも美味しい牛肉を生産するために頑張りたいです。(高橋 花智)

和牛甲子園に参加して

岩手県立 水沢農業高等学校



初めての和牛甲子園に参加して、他校の取り組みについて良く知ることができました。他山の石では名物の竹を薪料のみみからチップ状にしたものと合わせて活用する取り組みが印象的でした。

私は将来、畜産の和牛の繁殖農家を継ぎたいと思っています。貴重な体験をすることができても嬉しかったです。

(及川 ゆゆ)

今回の和牛甲子園を通して感じたことは、地域の農家さんなどへも調査を行っていた学校が多かったことです。私たちの後輩へも和牛新時代の今だからこそできる新たな挑戦に取り組んでほしいと思います。

私は高校卒業後、大塚に行き肉用牛の繁殖から経営、経営についてより深く詳しく学んでいきたいです。大学で甲子園のことを今度は私が教員となって教える立場となり、再び甲子園に参加したいと思っています。

(小寺 亜志)

和牛甲子園に参加して、全国から各校生が集まり、和牛経営の

成軍を競い合うことができても有意義な時間だと感じました。特に、先輩の高校牛児の方々への調教を聞いて、どの方も牛への愛情を持っていることが伝わってきました。牛の体調管理や行動を見て判断するだけでなく、思いやりや愛情を持って、牛と接する気持ちを持つことが大切だと改めて気づかされました。

(佐藤 結菜)

本校の先輩方のように豊稔秀吉を目標に出産牛を育て上げてきましたが、残念ながら入賞を逃しました。悔しい思いでいっぱいでしたが、オレイン製畜有塾が本大会で最高位だったことを豊稔秀吉研習会に報告いただきとてもうれしかったです。

体験発表会では消費者へアンケート調査を行い、ニーズに合った和牛生産をしている取り組みがとても強く印象に残りました。

(宮藤 楓乃海)

今回の和牛甲子園では他校との交流や意見を聞くことが自分のためになり、楽しむことができました。多岐交流をする中で相手との交流を深めるきっかけとなり、とてもいい取り組みだと思いました。また、「なやまさんに表」の普及が嬉しいサプライズになりました。

他校の取り組みで印象に残っているのは、どの学校も他校との取り組みを活性化させ、新しく多岐的な視点から考え直された取り組みを行っていたことです。

(藤村 実妃)

どの学校の取組もとても勉強になりました。2日目の東京会場市営では初めてのセリの様子に驚きの連続でした。本校の出産牛については、校舎にしてみなければ分からなかった肉質や脂肪の状況を見ることができました。

残念ながら入賞はならず、全国から集まった高校牛児たちのレベルの高さを実感しました。ここで学んだことを後輩へ伝え、次回の第8回和牛甲子園入賞を目標として頑張りたいと思います。

(三沢 帆)

岩手県立 盛岡農業高等学校



和牛甲子園に参加し、他校との交流や情報交換で様々な意見を聞くことができ、みんなこんな姿を覚えてるんだと参考になり視野が広がりました。私は将来、日本の畜産に貢献したいと考えています。この貴重な体験をこれからの生活に生かしていきたいです。

(坂本 千穂)

和牛甲子園に参加して、他校の取組や見る角度の違いが驚いて面白かったです。まだまだ知らないことが山あるので、今回知り合った皆さんと繋がりをもち、一躍日本の畜産を盛り上げていきたいです。

(池田 巧太)

岩手県立 花巻農業高等学校



来年は、後輩に引き継がなければなりません。また、来年も参加したいと思える大会でした。研修会では、他の学校の牛も見ることでできて、私たちの牛と比較することができました。反省は、もっと積極的に交流できれば良かったと思います。

(高橋 友那)

初めて参加させていただき、牛乳の皆さんへの愛を感じました。発表部門では、内容が牛に対する愛情を感じられる、素敵な学校が多く、勉強になりました。講演会でも、楽しく聞くことができ、他の学校の牛乳たちとも意見を交換することができました。

(新田 珠輝)

宮城県農業高等学校



私は1年生の時から「もっとうた」が成長する姿を見てきました。朝と放課後、実習の時間を通して管理をし、主にブラッシングに

力を入れ手が空いたときは必ず行いました。過去の先輩方は「愛情・肉質」をテーマに活動していました。今後も私達「愛情・肉質」を目標に頑張りたいと思います。

(木村 藍花)

和牛甲子園本番では宮城の牛をアピールすることができました。現在、ワクライナ情勢の影響で値段が高騰している牛の値段も下がってしまいましたが、宮城の牛は肉質が良く肉取って頂く事ができ、とても嬉しかったです。牛作りを通して牛についてだけでなく、畜産の意義などの流れを知ることができとても良い経験をする事が出来ました。

(及川 ゆらら)

私は全農の方とアイミート実習を行った事が、思い出に残っています。生体のまま肉質を見る技術を体験することができました。自分たちが毎日ブラッシングや給餌、体調などをたくさんチェックした甲斐がありました。

(大栗 莉花)



和牛甲子園に参加して

福島県立 会津農林高等学校



自分たちが飼育した和牛が優秀な選ばれたことに驚き、大変うれしかったです。受賞した牛は、はじめは驚くことを覚えず毎日牛でしたが、徐々に慣れていき、最後にはいっしょに遊ぶ動物もやっくりと動いてくれるようになり、牛ですが、私自身も成長できたと思いました。成長して肉量も増えますが、肉売金を通して、皆さんに美味しく食べてもらいたいです。(大友 優希)

会場に到着し、他校の観戦や発表に圧迫されました。取組評価部門では、仲間や先生方と協力して研究やスライド作成を頑張ったので、選ばれた気持ちもありましたが、残念でした。校内

評価部門では、校内を回るときに2頭ととでも納麗なウシで、BMSNo.12に仕上げることができ、優秀賞を獲得することができました。高層専攻科で活動してきた中で、一歩うれしく頑張りました。(児島 心結)

今年はオンラインではなく、実際に会場に行き、他の学校の発表や校内を巡視することができてよかったです。特に校内評価部門では、食肉センターの広さと校内の敷の多さに圧倒され、とても感動になりました。そして、校内評価部門で優秀賞を獲ることができて良かったです。(小竹 颯也)

初めて和牛甲子園に行ってみて色々な牛を見てきた牛の校内や行っている活動など、色々なことがありとても良かったです。特に意見交換の校内や発表がとても良かったので来年は負けないうらいの牛を仕入れたいと思いました。(大友 優希)

今回の和牛甲子園での取組評価では、他の高校で行われているSDGsに対応し、未利用資源を活用し、牛糞についても牛糞を自給していたりと思う興味深い取り組みを数多く学ぶ事ができ、非常に刺激となりました。校内部門では、色々な校内を見て、何が良く何が減速に繋がっているのか詳しい説明を受けたり、取組部門で入賞していた高校さんの校内を見学できたりと、非常に貴重な有意義な体験ができたと思っています。(野村 実結)

福島県立 磐城農業高等学校



参加して良かったことは、これまで約20ヶ月以上も肉を共にしてきた出産牛の「草雄」と「珠太」の成果が目に見えて分かったことです。驚く量とはなかったものの、無食料の方にお褒めの言葉をいただいた。これまでの自分達がやってきたことが少しだけ報われた気がして嬉しかったです。

母校との交流は、5年とは違ってカンファレンスを都をしたり、名刺交換をして仲を深めることができました。

今後の目標は、今年度の結果を逃がし、より良い結果になるように頑張りたいと思います。

最後に、和牛甲子園を開催してくださった金堂さんをはじめ、関係者の方々に感謝の気持ちがいっぱいです。私にとってはかけがえのない思い出の思い出になりました。(河野 実菜)

二回目の参加であり、前回とはまた違った雰囲気を感じました。今頃は入賞ができず、少し悔しさが残る形とはなりませんが、それは別に、賞に入る高校の取り組みや校内には圧倒されました。今後は、新設していただいた畜畜畜畜の方々のお言葉を前に今回は、結果の取り組み、校内を仕上げたいと強く思いました。

今回の和牛甲子園では、実際に校内見学ができた。他校の取り組みの内容も詳しく聞くことができ、とても貴重な時間でした。3年生である私は来年参加できないことがとても悲しいですが、後輩たちに頑張ってもらう。本当にありがとうございます。(清水 泰心)

私は、はじめて和牛甲子園に参加しました。私が参加して思ったことは、日本にはこんなに沢山の牛について勉強している素晴らしい高校があり、しかも一回に集まっているのだと知って、とてもびっくりしました。私はまだ高校1年生なので、まだまだ牛について知らないことがありますが、勉強も実習も頑張りたいです。この和牛甲子園に参加して良かったです。(松崎 花梨)

私は今回、はじめて和牛甲子園に参加しました。取り組み発表部門では、母校がどんな取り組み、どんな工夫をしているのかを知ることができました。校内部門では、はじめて校内を見学し、どんな校内なのか、校内の場所などが分かりました。今回はじめての経験で、分からないことが多く大変だったのですが、来年はそれを活かして頑張りたいです。(加藤 花音)

茨城県立 水戸農業高等学校



牛経での2年経「フジ」と「セリ」の習得を行ってきて、結果和牛甲子園に出展することができました。結果は入賞できずでしたが、猪りでは、セリの長肉が1キログラム5.68円という好成績を出すことができ、自分たちの努力が実った瞬間だと感じ、とても嬉しかったです。

「フジ」と「セリ」の長肉を測る習得を受けた時、「もう少し赤みの部分が増えるといい」と言われ、そのためにはどうしたらいいのかと悩むと、日々の飼育管理が大気というアドバイスを受けました。それを実践させるには、今取り組んでいるよりもっと牛の飼育管理について勉強の必要があることが分かりました。私たちの工夫では、飼育の考え方が上手だと獣医の言葉をもらうことができました。今の、後者たちには今回和牛甲子園で私自身もアドバイスを伝え、飼育の考え方を授けたいのであらうと同時に、獣医協会に取り組みしてもらいたいです。

和牛甲子園で学んだことは、文章で表すよりもいいです。後輩と聞かれるうちしっかりと伝えたいです。今回初めての和牛甲子園でしたが、これからの態度でこの経験を最大限活かせるように頑張りたいです。
(小園 翔平)

今回初めて和牛甲子園に参加して、取組発表は入賞級のレベルがとて高く大変な事でした。また、牛経(牛)の飼育を日々飼育し、高度な皮下脂肪の少なく良い肉質になっているとお褒めの言葉をいただきました。今回は和牛の2頭ともA5等級となり賞状のプラント(賞状)としてお褒めさせていただきました。このような結果がでたのも、毎日のブラッシングの成果がでたのかなと嬉しくなりました。私はもう卒業してしまっていますがこれから後輩に頑張ってほしいです。とても良い経験となり、3年間を学ぶ中で一番良い思い出になりました。

(佐部 輝樹)

一昨年、私たちの前に現れた「露花美」と「神和風」は私たち和牛甲子園に連れて行ってくれました。足巻を育てていく中で私自身も成長することができたと思います。飼育管理を通して触れ合っていく中で、牛も肉を磨いてくれたりするような気がしました。見るたびに大きく育っていき、2頭が和牛に育っていき方になかったです。

出展しての肉になった姿を見ると、いっぱい愛情込めて育てたからこそ、和牛甲子園で良い評価をいただくことができ、とても感謝しました。

今振り返ると、日々の飼育や牛経と活動していた時間はあっという間に、終わってしまったように、少し寂しい気持ちです。2頭と牛舎のみんなについてくれたからこそ、この貴重な経験と大切な思い出があると思いました。

和牛甲子園を通して、和牛について深く学ぶことができ、何より命を授け、いただく尊さを深く学ぶことができました。多くの人の協力があるからこそ、私たちは素晴らしい肉を育べたり、牛を育てていくことを改めて実感しました。当たり前を感じることが当たり前ではなく、これからも日々感謝を忘れずに過ごしていきたいです。

最後に和牛飼育に関わっていただきました水産部部長の皆様、本当にありがとうございました。
(岡久津 幸樹)

栃木県立 宇都宮白楊高等学校



和牛甲子園に参加し、多くのことを学ぶことができました。1日目は、各校の研究についての発表を聞きその地域の特色を生か

した研究をしていてとても興味になり、取り入れられるところは取り入れていきたいと思いました。

2日目は、実際に校舎を見て自分たちの母校の出席年の調子を聞くことができたので後輩に引き継ぎを助けてもらいたいです。最後に、甲子園に参加したことでの交流を密にすることができとても良い経験となりました。この経験を卒業後も生かしていきたいです。
(大原 来人)

和牛甲子園に参加し、和牛について多くの事を知る事ができました。1日目は、全国の肉販や牛と交流や産地発表をみて私たちに無い発想のものかいくつもあり、今後参考にしていきたいと思いました。2日目は実際に校舎を見て、産地を知る事ができたため産地に引継ぎを助けてもらいたいです。また、活動を通して全国の肉販と交流できとても良かったです。卒業後も今日の経験を生かしていきたいと思えます。
(高井 謙心)

和牛甲子園に参加して

栃木県立 鹿沼南高等学校



私は初めて和牛甲子園に参加し、入賞した学校の研究内容を聞くことで、私たちの知らない研究をもたくさん行われており、このような取り組みもあるのだと感動になりました。講演では、和牛甲子園に出場された方の貴重なお話を聞きました。初年にも関わらずに活躍の仕事をしたり、メディアの仕事に就いて牛の良さを広げたいという話や、本当に牛が好きなんだと聞きました。若者会カンファレンスでは、「肉質をよくするためのどうしたら良いか」と真面目に話し合い、審査委員の方から様々なアドバイスをいただくこともできました。2日目の校視察では、校肉を見ることに少し怖さがありました。説明されていると「もう少し脂肪が少なかつたら良かったな」と肉の厚しさを褒め、肉の向き方の違いに感心しました。その後、セリが行われると30年間の研究開発の力が「あっ」という間に実ることになりました。ある高校は、牛1頭が6,000円を売ると聞いていました。私たちは鹿沼南高等学校です。2,000円台で値段が安いと感じましたが、なかなか良い結果だったと思いました。講演では和牛の良さを世界に広める活動をしている「屠体ブリーダー」の話を知ることができ、とても素晴らしい取り組みだと感じました。高校時代に和牛甲子園に参加し入賞はできませんでしたが、多くの校肉を見ることで、とても勉強になりました。(伊藤 彩輝)

私は、和牛甲子園に初めて参加しました。この大会評選は、取組評価部門と肉質評価部門があり、取組部門で入賞した高校は、肉質を呼び取組まで調査研究をしていると聞きました。私は、他校の良い部分を吸収しようという意思にメモを取りました。特に、肉質を見ながら発表する高校生と同等の高校生がのびた性的な声を出す姿を拝見しました。私たちも、男子校に選ばれるとクラブレベルを混合した和牛交配や畜産GAPの取組、そしてスマート農業等に取り組んでいます。私たちの調査研究に対して、新たな資料としてのクラブレベルに興味を示してくれた学校もありました。私は、コーヒー豆の売場に出張している高校の発表を興味深く聞きました。校肉評価では、校肉のつくりから飼料管理を振り返りながら評価を聞くことで、飼育管理の再確認が必要だと感じました。私たちの大会は終わりますが、豪華な方には、クラブレベルで和牛交配を体験し、さらに肉質評価を学ぶことで、来年こそ良い結果を残してほしいと思います。私は、動物関係に迷わず、今回の経験を活かし、さらに動物の管理について学びたいと思います。(内田 真樹)

私は初めて和牛甲子園に出場しました。体験発表では他校の取り組みを通して、「皆さんを大切にして」と感じました。また、賞状でも「ここまでできた」と聞きもありました。講演では、和牛甲子園に出場した方々のお話を聞き、夢を叶える行動が大切だと思いました。特に、審査員から賞状がもらえるまで、夢を叶えるまでを体験していることがすごいと思います。

した。大会1日目は、参加している方々のすこぶるおもしろい、たくさんの方の質問や交流するところが楽しかった。2日目は、肉質を初めて見ました。道路のような広い会場に入った印象は、とても広がりを感じました。それと同時に私たちの育った牛の肉質を見ることで、食料として食べられることにもっと感謝しようと思いました。私たちの校肉は低くも入賞しましたが、他校の校肉の色が「すこぶるいいな」と自分たちの校肉との違いを感じることもできました。校肉のセリは、初めてでしたが楽しかったです。私たちの校肉も、少し高いと感じて嬉しく思いました。講演では、「屠体ブリーダー」のお話を聞いた時、英語の勉強をしながらアルバイトでお肉を売ったときに私のやりたいことはお肉関係の仕事だと感じたことを聞き、「本当にやりたくてあるんだ」と聞きました。夢を叶えるのが世界に和牛の良さを広めていく仕事は、とても楽しそうだなと思いました。また、表彰式の際、鹿沼南高等学校鹿沼南高等学校が、将来の夢を聞かれたときに「日本一、世界一、甲子園の賞状に」と答えていて夢を大きく持っていると感じました。そして、なかなかに君が頑張っている姿を見てくれていたことは、すごい大会だと思いました。このような大会に参加できたのは、鹿沼南高等学校のおかげだと感じました。4月から私は、社会人になりました。今回の経験を生かして頑張りたいです。(鈴木 航花)

私は今回和牛甲子園で他校の方々の発表を聞き、栃木県の高校で実施しているクラブレベルの取組や各校も肉質を改良し、実施していることを知りました。また、入賞校の発表は、「牛ノコ」の取組やお茶など多岐にわたる取組を題材に出した実業やアニマルウェルフェアなどについてお話を聞きました。牛の良さを支えるのが畜産のHACCPやGAPをしてSDGsに基づいた発表はとても興味深く感じました。また、校肉評価では、発表者から入賞は少し怖かったです。他校の取組や校肉と比べて聞き取りやすい方の説明を聞くことで、聞いていた点と違っての点を理解することが出来た。本校の肉質の改善、コースの小さな点や肉質の改善、皮下脂肪のつきすぎ等を教えていただきました。特に、校肉の作りでは、コースの大きさや肉質改善の肉質、脂肪の割合の統一など、様々なことをお話しくださいました。また、校肉評価において、賞になる点と入賞として1点が重要ポイント、バランスのよい発表だと褒めて頂けたのはとても嬉しかったです。セリでは、観覧者が肉質を確認しながら、少しでも高く入札していただくことが、どれほどありがたいことなのか理解する事ができました。高校生の出席率のセリでは、準備が上がりすぎて様子を見てお話しを質疑に答えることができませんでした。高校卒業後に出場した牛のセリの様子は大変な緊張と喜びを感じました。今回和牛甲子園に行き、他校の取組や初めて校肉を見たことは、とても思い出深いになりました。また、鹿沼南高等学校の取組や肉質改善に任命された方々や皆さんに話を聞いて頂けたこととても嬉しかったです。この経験を活かし、今後も頑張りたいです。(前田 夏海)

私は、今年初めて和牛甲子園に参加し、大会の協力のおかげで、色々な高校の発表や質疑を聞くことが、私たちの発表を評価することができ、とても楽しい大会に参加できたと感じました。1日目は、体験発表、講義、体験若者会カンファレンス、交流会がありました。特に、体験若者会では、昨年までに出場した高校の取組や改善点を会場内に調べ、今年こそはとどの高校も自信を持って発表していることがとても嬉しかったです。講義では、鹿沼南高等学校鹿沼南高等学校の卒業生3名の方が、インタビュー形式で校肉や肉質の向上などについて話してくれました。体験発表会カンファレンスでは、私たちが発表したクラブレベルの取組に対して、審査員の方からの好評を頂き、

これからの実践に動いていこうと思えました。交流会では、なかやまさんに遊びスペシャルゲストとして自遊し合塾を盛り上げてくれた。パワーを頂き、これからの研究を強める活力になりました。二日目は、校内勉強会、校内外交流会、講演、校内外書き手評がありました。校内外勉強会では、東京理中央研究所市場食肉市場に行き、初めて校内を見学し、校内の作りを見て驚きました。畜産員の方から説明です。飼料の本番が行っているのは牛の必要を見たら分かること、油を採りすぎていることなど細かく教えていただきました。私たちの学校は、「もう少し頑張ったら入賞できたよ」と言われ、「来年は今年よりもっと頑張るね」と後輩に伝えたいと思いました。セリでは、五年の3,056円を越えたいと目標しましたが、2,900円代で少しがっかりしました。しかし、結果が数字として表れて良かったです。講演では、畜産ブッチャーの渡邊真由美さんからお話を聞き、和牛の素晴らしさを世界中の方に発信することで、これからの日本の畜産を盛り上げる高気な方だと感じました。私も、何が自分が好きなので、世界中に発信できる人になりたいと思えました。最後は、今回は入賞することは行いませんでしたが、今回取り組んだ研究は無駄ではないと思います。私は、この経験をこれからの世に繋げていきたいです。

(内井 美穂)

私は、畜科生産科畜産の2年生と共に行き、和牛甲子園に行きました。私自身、福地牧場が専門のため畜産の知識はあまり無く不安でしたが、多くを学び交流をすることができました。初日は、参加校の紹介から始まり、和牛飼育体協委員会が挨拶を交わしながら、入賞校が評価された点などご報告、畜産関係との交流は何かを探しました。先輩各校の発表は、今までの経験に基いた話をしてくれたことで、とても有意義な時間を過ごせたと思います。二日目は、沼津畜産食肉市場に行きました。各校、育てた牛の校内を見学し、担当の方から、良い点と、改善点などの個別をして頂きました。セリでは、1牛甲斐5,000円の値が付いた校内があり、とても驚きました。セリ場は大盛り上がりでした。校内外勉強会、入賞牛の解説と販促式が行われました。入賞牛は

他の牛と比べて何が秀でていたのが、入賞校は他の高校と比べてどのような飼育管理を行い成果がでたのか。また、どのような価値観をして来たのか。とても興味深く、今回、鹿沼畜産科の畜産部で学ぶ機会を頂きありがとうございました。しかし、反省すべき点もありました。専門知識を深めたいことがあったのです。福地牧場の相談は事前調べ、控に入れておくべきでした。五年の和牛甲子園に参加できるかは分かりませんが、3年生の選択科目で畜産を学び多くの知識を身に付け、今年以上の良い成績を収められるように努力して行きます。

(萩原 和己)

今回、先生方ののおかげで環境維持科に所属しながら和牛甲子園に参加させていただくことができました。大会では、校内の評価方法、各校それぞれ特色のある牛の育て方や研究発表会など、2日間にわたり貴重な体験をさせていただけました。一日目は全国から集まった参加校の紹介から始まり、研究発表の順番が回りました。どのような点で評価されるのか、評価の細かい質問などのような取り組みや工夫をしているのかを知ることで、大変勉強になりました。その後も、先輩各校の牛育ちによる話など、最後の学校生活ではできないような体験ができ、実りのある一日となりました。二日目は沼津の畜産食肉市場へ見学に行きました。牛の校内を視察で見ることができ、牛の飼育について評価の仕方を知ることができました。自分自身、育てた牛の校内を見ることは初めての経験だったので最初こそ驚きましたが、責任感をもたなければいけないのだと再確認することができました。牛は後世に引き継がれる。入賞した牛の取組と畜産を比ぶるようなものを感じていていながら、畜産を学ぶことができて良かったです。入賞校のインタビューでは、一ユーザーが本気で牛と向き合っていると伝わってきて、「畜産も肉にいられない」と感じました。私は、畜産が大好きで、いざいざが畜産の知識に誇りを感じた大会でした。しかし、牛の命を預かり、育てる者としての責任があると同時に、私には学ぶ姿勢があります。だからこそ、来年は選択科目で畜産を学び、畜産の知識を増やし、よりよい牛づくりのために全力で頑張ろうと思います。

(櫻井 光二)

栃木県立 栃木農業高等学校



他校に向かう車の出陣！道案内の方面と色別交換もしたり、SNS交換をしたり顔談の話をしたりなどSNS交流する事や、笑顔

に見る事の出陣！校内を触ったり聞いたりして近くで比べる事ができたので参加して良かったと思います。

(藤野 光輝)

今回初めて和牛甲子園に参加しました。他校の畜産高校の人も意見交換や、名刺交換が出来てとても有意義な時間でした。また、自分たちの学校の出品した校内が審査員特別賞をいただくことも嬉しかったです。初めて和牛甲子園に参加して勉強になったこともたくさんあったので、学生だからと交流の世代に引き継いでもらいたいです。

(清水 康成)

今年初めて和牛甲子園に参加しました。他校の人たちと名刺を交換して意見交換したりしました。

実際に自分が育てた牛の校内を見てとても興奮でした。特別賞にも入り、とても嬉しかったです。

高校の3年間で牛をすべて売ったことでした。

(鈴木 小春)

栃木県立 那須拓陽高等学校



和牛甲子園という全国の農業高校生が交流する場に参加できてとてもよかったです。高校ごとに様々な活動を行っていて新しい発見や刺激をもらいました。今後も農業に対して関心を持ちながら知識を深めていきたいです。(和田 一輝)

和牛甲子園に出場して全国の高校生と交流できてとてもうれしかったです。同じ夢に向かってる人たちを見てとてもいい刺激を受けました。(明谷 高来)

今子孫繁栄によって著者の財産人口が減少している指在ですが、和牛甲子園を通じ、全国には農業を志す仲間がご人にもいることを知り、私は勇気を注いだそんな機会となりました。

(後藤 敏守)

全国の農業高校の皆さんと交流できて良かったです。私たちとは違う視点からの経験や研究を知り、自分のためになりました。イベントがあったりなかやまさんに着が来てくれたりと農業をやっているよかったです。(長谷川 空海)

和牛甲子園に参加し、多くの方の刺激を受けてとても良い経験になりました。また、名刺なども交換してコミュニケーションを取れてとても良かったです。このような大会に参加できたことを今後の糧としていきたいです。(藤本 梨紗)

将来、畜産で働く自分にとってとても貴重な体験になりました。育てた牛をちゃんと出荷するところから全国の農業高校の皆さんと交流したり、いろいろな方々から話を聞いてとても良い経験ができました。またなかやまさんに皆さんのご褒美など楽しく和牛甲子園に参加できてよかったです。(田嶋 悠汰)

栃木県立 真岡北陵高等学校



全国から集まった高校牛乳課と共に、日ごらの成果を発表し合うことができ、良い経験になりました。畜産の活動内容とても興味深いものだった。すぐに実践できそうなことがあったりと、今後の活動に参考になりました。(井澤 優樹)

他校と自分の学校の傾向を比較しながら見ることができたので、とても勉強になりました。入賞した校肉は、どれも綺麗にサシが入っていて、拜とれてしまうものでした。来年こそは入賞できるよう努力していきたいです。(山崎 直斗)

和牛甲子園に参加して、普段聞かないような高校生の交流が持てたことは、とても良い経験になりました。様々な取り組みを知り、今後自分達の畜産にも活かしていきたいと思えます。(深田 莉奈)

栃木県立 矢板高等学校



昨年は先争者が、校内評価部門で優良賞賞を獲得していたため、運営を円滑に運営することが出来た。結果、予選会で1人が、クラスタ争いがAランクかつ両方で競り落とされる瞬間を見ることで、本当に嬉しく思いました。(石塚 泰平)

私は高校卒業後、経営者の職種で研修を行います。経営の高校も参加していたので、雰囲気を出して名刺交換を行い、交流することができました。和牛甲子園は牛仲間を認むられる最高の大会だと思っています！(神長 慎秀)

実際に牛肉を見るのが初めてで、冷蔵庫の中の光景に圧倒されました。1頭1頭に敬意を感じるとともに、と畜・流通・販売に関わる方々に感謝の気持ちが高まりました。(窪田 啓也)

群馬県立 利根実業高等学校



今回和牛甲子園に参加して他校の生徒と交流ができ、どのような取り組みをしているのかが具体的に知れてとても勉強になりました。他校の頑張っている生徒と出会うことができて良かったと思いました。(磯江 紅羅未)

和牛甲子園で他校の方々と交流して意見を交換して、多くのことを学ぶ事ができました。知ったのは、アニマルウェルフェアというものでした。学んだことを後輩に伝え、来年の和牛甲子園に生かしてもらいたいと思いました。(野上 夢奈)

和牛甲子園に向けてブラッシング、飼やりなどをしてきました。アンテナ農場の被災では大変な事になりましたが結果も出せて良かったです。和牛甲子園全体を通して他の学校の勉強を頂きました。この貴重な体験を忘れずに今後に活かされればと思います。(吉木 柚子)

和牛甲子園では、多くの高校牛児が和牛について学んでいるのだと聞きました。取組評価部門の結果発表と入賞校の発表がとても心に残りました。校内評価部門の結果発表では、福也と波菜の校内を見ました。どちらもA5等級になりました。(八木 聖典)





和牛甲子園に参加して

群馬県立 吾妻中央高等学校



今回初めて和牛甲子園に参加しました。去年は先輩方が参加していて、かつリポートでの参加だったので初めての参加は楽しみでもありましたが不安でもありました。高校から経験について学び始め普段乳牛と触れ合うことが多く、和牛への知識があまりなかったので美形の研究発表のレベルの高さや初めて見る和牛にとっても驚きました。校内外の会や先輩牛乳の方、畜産ブッチャーの

方の質疑も充実していて、とてもためになる経験をすることができました。残念ながら入賞することはできませんでしたが、今回の和牛甲子園で見たもの聞いたものを今後の経験として活かしたいです。(関 すみか)

今回、初めて和牛甲子園に参加して、自分達が育てた肥育和牛を出品することができて嬉しかったです。実際に和牛を見た時は少し複雑な気持ちになりましたが、改めて命の大切さを感じる事ができました。この気持ちを忘れずにこれからも頑張りを深めていきたいです。(西井 いろは)

今回和牛甲子園に初出展してみても、和牛使用についてとても勉強になりました。初出展でわからないことも山盛りでしたが、他の学校の先輩方と話したり、講話をきいたりしていく中で、さらに和牛について興味を持つことができました。(飯塚 雄介)

和牛のどのような和牛が良いか、飼料や与え方の肉質が変わってくるなど、とても勉強になることができました。また、飼育実習の和牛と吾妻中央の和牛を見比べたのも全然違ったのもっと勉強意欲を高めていきたいと思いました。(本間 翔生)

神奈川県立 中央農業高等学校



高校最後の和牛甲子園に3年向きに参入して参入。そして牛と一緒に出場し、優秀賞・A5等級を獲得することができ、本当に嬉しかったです。次の大会に向けて後輩には更に上を目指して頑張ってください！(関 優希)

毎年各校のレベルの高さに圧倒され、和牛甲子園入賞が私の夢になっていきました。今年度は取り組み評価部門で優秀賞という結果を頂き、支えてくださった多くの方々に感謝を伝えたいです。また、ここまで一緒に頑張ってくれた出品の「黒男4号」、本当にありがとうございます。(宮沢 心倫)

初めて和牛甲子園に参加し、皆のやる気や伝わりとても楽しかったです。そして優秀賞を受賞できてとても感激でした。生のなかやまさんに君も最高でした！(土屋 翔希)

今回2回目の和牛甲子園の参加で、去年とはまた研究内容が変わってたりしてとても面白かったです。来年は自分の代になるので、今までの先輩の研究や他の高校のいい所などを参考にしながら頑張りたいと思います。(土屋 道香)

全国の高校が特色のある研究をしていて、見聞を広げるとも良い機会になりました。また、それぞれの研究の利点や課題も知ることができ、これからの改良に向けての勉強になりました。(岡田 大匠)

今回初めて和牛甲子園に参加してとてもいい経験をさせて頂きました。特に和牛の選育では、今後の改善点やこれからも和牛を育てていくことなどが分りました。来年の出品に向けて日々々の練習頑張りたいと思います。(高木 希志)

まだ1年生という経験や学びが足りなくて和牛甲子園という大きな大会に参加することができ、他校の取組を実際に感じたり和牛のセリの迫力を感じる事ができました。来年や再来年には今回の改善点を生かし、先輩方の取組も勉強していきたいです。(宇留野 美莉)

富山県立 中央農業高等学校



2日朝とでも緊張していました。今後の実習や課題研究などに活かせるような経験になりました。体験発表会では、その地域の特産物を活用した取り組みが新発見の連続でした。校内外共闘会では、高校生の育てる和牛の質の高さに驚き、今後も質の高い和牛を育てていきたいと強く感じました。(田中 直哉)

和牛甲子園白馬まで大変な道もありましたが、先生や先輩、同級生から多くを学び、貴重な経験となりました。また、各校が甲子園の交流会やOB・OGの講話、サプライズゲストの賞贈など様々なイベントがあって、とても楽しい2日間となりました。今回の経験を胸に、新たな気持ちで来年の和牛甲子園に臨みます。(山下 みさき)

先輩方の軌跡を知ることができる、とても貴重な経験ができました。しかし高校の研究発表を聞き、理解はしていましたが高校の発表では足元にも及ばないという事を痛感しました。しかし、校内外共闘では本校和牛甲子園史上最高の評価となり、嬉しかったです。次回に向けてしっかりデータをまとめ、備えたいです。(中村 悠人)

他校でどのような経営方法なのかなど、同じ年代の高校生相手に雑談できた事がとても面白かったです。また、校内を見ることが初めてで貴重な経験をできたのでよかったです。先輩の進学や就職についての話も聞くことができて自分の将来につながる価値なども聞けて良かったです。(三浦 謙樹)

岐阜県立 大垣養老高等学校



いろいろな高校の人と名前を交換したり質問をしあったりして交流ができてよかったです。全国の高校と交流をすることで色々な新しい発見があった。

市場では岐阜県のみならず市場内を盛り上げて楽しかった。養老養老山高校は6,249円で和牛甲子園の中で2番目に高かった。養老多可には納税があると思っていたが、なかったし、BMSも11だったのを知りとても驚いた。

今年の和牛甲子園でたくさんの方のことを学ぶことができました。いい結果を得られることができてよかった。(森田 七海)

今回第7回和牛甲子園に出場させていただけ、様々な高校の校内外や取組発表、質問など勉強することができました。ほとんどの高校で持続可能な牛の飼育管理を目標としてさまざまな取り組みを行っていた。北海道の知高校では消費しきれなくなったジャガイモを使用しした飼料作りを行き、鹿児島県竹村は竹林の畜地帯が毎年増加していたことと、飼育者の減少による牧場竹林関係の拡大が地域の課題になっていたため、竹林を使用した飼料にした

「皆サイレージ」をつくった。皆サイレージはオレイン酸が高く、なるという結果がでた。このように様々な高校で地域の特色になっていることを高校生が取り組むことよって地域に貢献し、高校生のことや地域の良さが伝わりやすくなり地域との交流を深めることが可能となるため、これからの高校生の取組がとても重要になってくると思った。また、和牛甲子園で得た経験や知識を生かしていきたい。(厚田 彰樹)

いろいろな高校の人と、名前交換をし、互いの取り組みについて話し合いの場をつながりを持ち、知識を交換し、他校での思いやにもなるような時間を過ごせたと思う。

参加している高校の多くでサンパエ対策について取り組んでいていくつかの高校があり、その中でもサンパエ対策にニクスブという養生剤を飼育したという話を聞いた。これまで見てきたものだと、薬などを使うものが多かったが、薬をもって薬を制するがごとく、自然に目を養うには薬を、のようにならせたやり方は今まで考えたことがなかったなと思った。(森田 謙)

私たちが疑問に思ったことを全国の養牛高校生と大規模な交流ができたこと、すごくいい機会になったと思う。また、私たちが取り組んだことのない新しい発想や全国の無農薬飼育が発表されてきて、今後の大垣養老高校の飼育改善の改善にも役立つかもしれないと思った。卒業したレジデント牛乳や養牛ブッチャーの方の話など高校を卒業した後も年がかわった話を聞いておもしろいと感じた。今回は取り組み評価部門賞という結果だったが、肥育のみならずから作り練習してすごくいい発表ができたのではないかと感じているのととてもいい経験だったと思う。今回に出場した経験や多岐の飼育が消費者のもとへと届いておもしろいと感じてもらえるといいなと思う。(松岡 幸衣香)

岐阜県立 加茂農林高等学校



充実した楽しい2日間でした。和牛甲子園は、3年間の研究発表を発表する最初で最後の大舞台でした。どの高校もそれぞれの地域の色を込めた発表でとても面白かったです。実際に会場に行くことができ、年を愛する高校牛児が沢山いることを実感できて嬉しかったです。

取組評価部門では最優秀賞を受賞することができましたが、校内評価部門では入賞することができませんでした。しかし、他校の牛と比較して課題を見つけることができました。

様々なことを学ぶ機会をいただき本当にありがとうございました。
(中野 陽)

私は和牛甲子園を通して、多くのことを学び経験することができました。取組発表では、発表部員を毎日何度も繰り返し練習し、動員も利用も振り回しました。とても大変でしたが最後までやりこることができました。その甲斐もあり最優秀賞を受賞することができました。私たちの名前が叫ばれた時は本当に驚き、とても嬉しかったです。

他校の生徒さんとも交流することができ、畜産業の未来について本気で考えている人たちが多くいることを実感できました。

私たちの課題や改善案も分かったので、来年はぜひ総合優勝を目指して欲しいです。和牛甲子園に参加させていただきありがとうございました。
(徳本 真哉)

私は今日、2年生で参加させていただきました。先輩方の取組発表に対する熱意や牛への愛が沢山伝わりました。当日には会場の雰囲気も感じることができました。また、他校の生徒さんとも交流することができ、同じような夢を持つ仲間も多くいることが分かり、私もさらに夢に向かって頑張ろうと強く思いました。

あと約1年間の高校生活で例外的視察のように、研究や普段の生活を通してしていきたいです。とても楽しく充実した時間を提供していただきありがとうございました。
(遠藤 隼)

岐阜県立 飛騨高山高等学校



僕は和牛甲子園を経験して、とても沢山のことを学ぶことができました。他校との高校との交流では、他の高校と自分達の高校の違いなどを話しながら学ぶことができました。そして自分達の「うま」の良さを全国に広めることができたので良かったです。
(森本 悠)

甲子園を経験しては早く終わりますが、私の学校生活の中でとても思い出に残った体験でした。印象に残ったことは特別ゲストの登壇と他校との交流で、様々な高校の方と話して仲良くなりました。このような体験の機会をくださりありがとうございました。
(大西 永真)

愛知県立 渥美農業高等学校



今回の和牛甲子園では、取組評価部門で賞状賞をいただくことができました。3年間の努力が少しでも報われてよかったです。この3年間、「あすす」と「つむぎ」のおかげで楽しんではいきました。経済評論部門での賞とははたらくても、私にとって2部はいつまでも

自慢の2賞です。3年間ありがとうございました。(福岡 航真)

私は今回で3度目の和牛甲子園でした。各校のレベルアップした取組や取組を見ることができ、とても良い勉強となりました。また、他校との交流の機会が多くあり、良かったです。この経験を活かし、大学生活も頑張りたいです。3年間ありがとうございました。(奥田 聖輝)

和牛甲子園に初めて参加して、自分の知らない取組を知り、新たな知識をつけることができました。この得た知識を使い、今よりもよい取組を進めていけるように、これから頑張っていこうと思います。(杉本 蓮)

取組を初めてみたとき、どのような取組が勉強会で育てられたことが良かったし、今後の目標として畜産科の学校の取組に近づけられるような取組を行ってみたいと思いました。(仲尾 輝司)

滋賀県立 長浜農業高等学校



今回、和牛甲子園に参加させていただき嬉しかったことがいくつかあります。まず、他校の生徒との交流の中で飼育方法やえさの種類の違いが高校によって全然違うこと、牛に対する思いが本気で強いということが感じました。また、先輩方の話しも興味深く感じました。

一番、印象に残ったのは他校の良学・セリです。初めて自分たちが育てた牛の取組を見て本場へ貴重な体験をさせていただきました。(大西 心蔵)

今回、和牛甲子園に出場して他校との交流も、校内の良学、セリ取組の経験など貴重な体験を2日間でも体験できたことはとても良かったです。

他校との交流会については、北海道の生徒さんなど今まで接することがなかった地域の方と話すことができ勉強になることが多くありました。また、地元に関しても良学やセリと関係が深くあ

り関係になりました。(飯友 航斗)

今回和牛甲子園に参加して全国にたくさん和牛を飼育している学校があることに驚きました。校内に飼育しても初めて生で見ることができ、少し接客も気持ちになりましたが立派な取組になっていてとてもうれしく感じました。そのほかにもセリへの参加も印象に残る2日間となりました。(田中 夢歩)

この大会に向けて日々の学習や発表練習など一生懸命、取り組むことができました。受賞した学校の発表を聞いてレベルが違ってくることに驚きました。特に声の出し方や表情などについて学びました。取組を実際に見たときは迫力がありすごくびっくりしました。また、育て方でこんなに差が出るということがわかりました。本場に今回の大会は一生の思い出となりました。ありがとうございました。(藤原 美咲)

今回、和牛甲子園に参加させていただいて他校の発表のレベルや畜産の高さなどに圧倒されてしまいましたが、勉強になることが多くあったという向の2日間でした。特に校内に取組しては初めて見ることができたので大変嬉しかったです。自分たちが育てた牛のセリについても興味深くとても勉強になりました。(松澤 まい)

過去の先輩方の話を聞いてこの大会への取り組みを始めました。大会までは、発表練習など一生懸命取り組みましたが、当日発表の発表を聞いてレベルが違ってくることを学びました。そのほか、他校との交流会で取組のことや畜産関係の経験のことなど様々なことを学ぶことができました。

この経験を活かし卒業後の取組に取り組みたいと思います。(北宮 心蔵)



和牛甲子園に参加して

京都府立 農芸高等学校



私は今大会を通して、様々なことが学ばれたと思います。特に賞をいただいたことや、私たちだけでなく他校の選手も助けたことが、とても大きかったと感じました。良かった点やまだ改善できる点を知ることができたため、次の世代につながる、更に良い取組や肉質と材料甲子園に出て欲しいと感じます。(加藤 佳和子)

和牛甲子園で他校の取組を知り、和牛に対してこんなにも真摯に向き合う人達が本当にいるのを知り、感動しました。ダブル受賞出来て御曲丘や他校からも嬉しい評価をいただき自分たちの高校も負けてないと感じました。今回は「春菜」号の1頭出展でしたが、次は、2頭出展せると言うので、最優秀賞を目指せるように、頑張りたいです。(小出 涼太)

最初で初めての和牛甲子園に出展させて貰って、1年生の頃から大切に育てた「ヒメカ」和牛メロン1号を「初めての」肉質評価部門と肉質評価部門の両方で賞を取ったこと、本当に嬉しかったです。そして同じように和牛を利用する同校生のみんなの応援を見て新たな発見も内山あり、会場には色々なブースもあって楽しかったです。2日間のやりがとございました。(佐々木 悠実)

僕は和牛甲子園に参加して一番印象に残っているのは自分達が育てた牛の肉を見た事です。とてもきれいで良い肉内になっているのを見てすごく嬉しかったし、最優秀賞が取れるんじゃないかと思っただけと悔しかったです。もっと良い牛を育てている高校があるのだと思っただけ。次こそ最優秀賞を取って欲しいという気持ちが強くなりました。(佐々木 謙太郎)

他校の発表を聞いた際には、地域の特産品特等を使って様々な取組をしていたので、「まだ畜産にはこんな可能性があるのだ」と考えさせられました。校肉は高糖で取引して頂き、購入者の方に、「去年に引き続き良い肉内だった」と評価して頂けて嬉しかったです。最優秀賞は返しましたが、来年の最優秀賞には、最優秀賞を取ってみたいですね。(松尾 正地輝)

和牛甲子園に参加して、様々な産肉の高い肉内の表現に見ることができたことで、3年間の最後にすく良い刺激を受けました。ただ、結果としては最優秀賞を受賞したかったと思いました。(松本 聖輝)

島根県立 出雲農林高等学校



2年間で育てた「桃葉」が和牛甲子園でAランクの超MSG No.12を獲得することができて良かったです。また、他校の種豚の取組を知ることができ、参考になりました。和牛甲子園や研究で学んできたことをこれからも生かしていこうと思います。(木村 真由)

和牛甲子園に出展した「桃葉」号は約2年飼育してきました。私たちは、最優秀賞を目指して日々の管理をしてきました。毎週の清潔やブラッシング、休日も学校に行き肉質評価などをしていました。しかし、最優秀賞を獲得することができませんでした。

和牛甲子園での取組を見直して今後の牛の飼育に活かしたいと思います。(中村 夢輝)

今回の和牛甲子園で学んだことは努力をしても必ずしも良い結果が獲れるとは取らないということでした。「桃葉」は高糖率で賞に入ると思っていたので結果を見たときはショックを受けました。来年の和牛甲子園では好成績をおさめてほしいです。(小橋 十太郎)

今回の和牛甲子園は悔しい結果でした。期待があったことで種豚価格が下がりが、種豚研究の目標だった肉内部門での最優秀賞獲得ができなかったからです。ただ、最優秀賞の牛と「桃葉」を比べるまで歩留やロス率などがあり、全部はレベルが良いなと思いました。来年以降される第8回和牛甲子園に出展する2年生には私たちの取組を譲らしてもらいたいです。(藤原 結衣)

和牛甲子園に参加して、他の高校の取組がすごく良い肉内を見ることができました。「桃葉」の内質はものすごく良かったけどやっぱり最優秀賞の肉内は本当に人さきで肉力高かったです。でもやっぱり「桃葉」は今までたくさんのお金を食べて育てたんだに大きくなってくれたので私の中では「桃葉」が世界一の最優秀賞の牛です。この2年間の取組研究や清潔と意識はすごくいいものになりました。(中村 隆哉)

岡山県立 瀬戸南高等学校



今大会に参加して県外生との体験交流を深めたり、名刺交換の交流の中で取り組み内容の異同などを話したり充実した2日間となりました。体験発表では各々の地域ならではの観望点があり、解決に向けたユニークな発想に驚きを感じました。校内外交流会では予想をはるかに超える盛り場場を叩き出した校内外もあり、感動と驚きで一杯でした。

次大会では県外生を出品予定なので、その評価が待ちどおしいです。来年に向けて肉は肉上を目指していきたいです！(梅田 優)

今回、初牛甲子園に参加したことで、初めて実際の校肉を見られたことが1番よかったです。資料ではなく実際に肉の特産で

るサシや脂質などを細かく見ることで、色々存にことについて知り、考えることができた。

また、他校の方と話をすることで、お互いの学校について知ることができて楽しかったです。名前も個性が出ていて面白かったです。参加できてよかったです。(岡村 鏡介)

私は校肉を初めて見たのですが、想像以上にすごいもので、とても興奮しました！資料の写真だけではなかなかわかりづらかったところははっきりわかり、見ていてとても楽しかったです。いい校肉を作るのにとってもいい知識と努力を注いでいるのが一目でわかりました。

たくさん的高校生たちがそれぞれの目標を掲げ、努力しているのを見て、「私も負けられない」と思いました。とても良い経験ができて嬉しいです！

ありがとうございました。

(梅田 悠哉)

今回、自分は初牛甲子園へ初めて参加しました。この2日間、自分の知らないことについて知れたり、自分が育てた牛がどのようにせりかけられるのかなど、実際にせりの会場で校肉が焼かれているのを見られたりして、普通の生活をしていたら体験できないことを経験でき、とても楽しく感じました。

また、他校の高校生とお互いに名刺交換をして、自分たちの活動や研究について話し合いをして、充実した時間を過ごすことができましたので、とても良かったです。(光石 貴比呂)

広島県立 西条農業高等学校



初牛甲子園が終わって感じたことは大会に向けて、もっと早く始めていた必要があったことでした。

受賞した身つの出展物は全て発表が聞き取りやすく、資料も目やすかったためとても興味を惹かれました。

校肉部門では「産地別」の校肉量は良かったものの、皮下脂肪がとて厚かったです。しかし、重量を見ると、短期肥育を目指している私たちの研究の成果が出ているのではないかと感じました。また、適切な脂質にするにはどうしたらいいのかが、これ

が今回の校肉に対しての課題だと感じました。(木崎 雅哉)

今回初めて第7回初牛甲子園に参加して、とても良い経験や思い出、勉強になりました。他の高校の肉技術や飼料会社と連携した取組には驚かされました。2日間の校肉勉強会では、初めて校肉を見ました。一頭一頭サシの入り方や脂肪の厚さ、肉色に違いがありとても興味深かったです。卒業後は農産とは離れますが、今回の初牛甲子園での経験や学びを活かしていきたいと思えます。とても貴重な経験ができ本当に良かったです。(梅田 海菜)

私は、初めて初牛甲子園に参加して感じた事は、他校のレベルの高さです。取組内容のスライドや発表の仕方それぞれの工夫があり、よく見て欲しい形には厚や大きくして厚やすくし、聞いてくださる方たちに分かりやすく伝える準備をしていたことが印象的でした。今回、目指していた結果にはならず悔しい思いでしたが、これまでやってきた研究の内容を伝える事ができたと感じます。この大会に向けてデータの分析や資料など色々なことをしてきましたが、この活動はとてもいい思い出になりました。しかし、自然である農産物は育てることができなかつたので、畜産たちには関係してもらいたいです。大学でも肉牛に関する事を学ぶので、この体験を活かして頑張っていきたいです。ありがとうございました。(村上 博夢)

広島県立 庄原実業高等学校



今回、初めて和牛甲子園に参加して、各校の様々な取り組みや最新のTマスを知るチャンスができました。とても勉強になりました。また、40校と多数の学校の畜産に取り組んでいる生徒と交流でき、うれしかったです。今後様々な方からいただいたアドバイスをもとにより良い研究をしていきたいです。
(児玉 真梨実)

今回の大会に参加して、他校との交流ができたことはもちろん、他校の40校がどのような活動をしているのかが分かり、自分たちがこれからどのような研究していくのかが分かっていくのを知識を身に付けることができました。今後も現在の活動からより深く研究していきたいと思えます。
(松木 紗希)

山口県立 大津緑洋高等学校



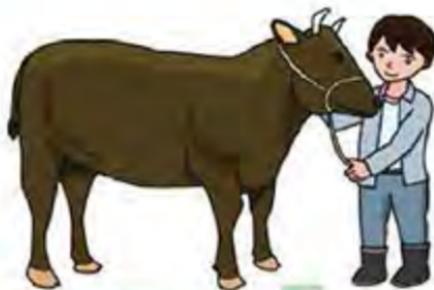
ほしいと思います。
(田村 茜)

今回初めて和牛甲子園に参加して、他校の高校牛児の人たちに会い、自分たちとは違う熱の入りをしておりすごいなと圧倒されました。今回は賞を獲れなかったのですが、畜産たちには頑張ってほしいです。
(関本 小春)

和牛甲子園に参加して、同じ目標をもつ高校牛児たちがたくさんいることに驚きました。また、他校の人との情報交流を通じて、えさの事や牛舎の管理のことについて、自分とは違う意見があり、勉強になりました。
(上野 太陽)

高校牛児たちのなかで、男性より女性の方が多かったことに驚いた。他校の取り組みを見て、今後の自分たちの取り組みの参考にしたい。また、他校の人と話したり、笑ったりできて楽しかった。
(清田 匠)

和牛甲子園では、自分の知らない事が多くとても良い経験になりました。交流会などで他校の取り組みを見て、とても参考になりました。この経験を後輩に伝えて、今後の取り組みに活かして



福岡県立 糸島農業高等学校



私がこの甲午甲子留で学んだことは、まさ、他の高校生たちがこの甲午甲子留にかけた工夫のすこさです。私は、他の高校の講演を聞いて、自分たちが取り組んできた工夫や失敗、成功などを、相手にどれだけ分かりやすく伝えるかが重要であることを発見することができました。私は、この経験を生かして自分だけが理解するのではなく、相手に理解してもらえよう工夫が必要だと感じました。教授や部活にも活かして取り組みたいです。

(木下 和樹)

体験発表カンファレンスでは、どの高校も分かりやすいように考えられており、勝手に翻譯をやってもらうにはどうすればいいのかなど、とても勉強になりました。名刺交換の際には、SNSを活用し、他校の人とつながり、意見を交流する場ができたことで、様々な視点からの情報を得ることができたので、新たな課題に生かせるように交流していきたいです。今年度は取り組み評価部門への参加だったため、今回学んだことを来年年度の取り組みにつなげてより良いものを作り上げたいです。

(内井 優希)

今回は、取組評価部門への参加でしたが、他の高校の取り組みのやり方や、課題解決への歩み、いろいろ試行錯誤してそれらをクリアし、より良いものを育て上げる様など、様々なことを学び、考えることができました。また、他校もどの高校も各々のやり方で、話し方や伝え方、資料の校正など工夫されていて、勉強になりました。卒業生の言葉など、日頃聞くことのできない有益な情報などたくさん聞くことができ、喜びが多くありました。校内見学やゼミでは、その場では感じることのできない空気を感ずることができました。

(内内 まほ)

大分県立 久住高原農業高等学校



会場に到着後は、とても緊張しました。大会では、取り組み発表部門において、受賞した高校の生徒の話方や練習時間などにもとても関わっていて凄いと感じました。また、ステージ上での受賞コメントに思い入れやこだわり、工夫などがずらずら聞き取れるのは、それだけ全力で年に対して愛情を注いでいることが分かりました。

それを覚えて私たちが来年年度、受賞できるように「頑張ろう」と思うことができました。来年 月、入賞できるように全力で頑張りたいです。

(今村 輝)

初めての出席で緊張しました。校内を初めて見て色んな形だったり、ナシの入り方も色々で、驚かすまでで与える影響は大きいことを学びました。今回は、発表部門だけでの出席で入賞はできなかったですが、やっぱり悔しかったです。来年年度は、もっと完成度を上げて、入賞できるように頑張っていきたいという気持ちが生ええました。

(内田 貴利)

初出席で、何も分からないうちまでの出席でしたが、大会の雰囲気がとても良くて安心感が良かったです。天山の高校干乳さんが実家まで、名刺交換などができ、交流が深まって良かったと思うし、他校の他校の方法などが分かって、これからの教育に取り入れてみようと思いました。校内外共済会の会場で、初めて食べる校内の肉類に少し戸惑いを感じましたが、実家は私たちの牛をここに持っているんだという強い覚悟を持って行うことができました。最後に、来年も牛乳の他校会をしてほしいです。(原田 美希)

佐賀県立 唐津南高等学校



全国の人たちの意見をたくさん聞き、変らなかつたことを学級（クラス）組合で、今後は牛の仕事を世で誇りをし、アツクいびびす。また各地の方言を聞いて、やはり九州の人たち同士はわかる部分も多く、交流するのが楽しかったです。（竹下 雅哉）

みんなそれぞれの目標に向かって頑張っていて、勉強になりました。茨城や岩手の学校と交流ができて親近になりました。今後は牛にストレスをあまり与えないよう工夫していきたいです。なかやまさんに皆さんにも伝えてよかったです。（福井 飛帆）

長崎県立 諫早農業高等学校



今回初めて和牛甲子園に参加して、評判についてたくさんのご意見を聞かせていただきました。とにかくこの学校もレベルが高く、今回発表だけの参加でしたが、次年度第8回に参加を予定している私たちにとっては、大きな刺激となりました。今回の貴重な経験を活かして、次年度いい結果が出るようにさらに頑張りたいと思います。（藤間 友弥）

今回は和牛甲子園に出場してとてもいい思い出や経験ができました。特に入賞された各学校の発表では、その内容の素晴らしさと解りやすさに感動しました。さらに食肉市場を見た校舎にはすべてのものに圧倒され、私にとってとてもいい刺激になりました。いま私は第9回和牛甲子園に出場するウシの担当として、日々管理に努力しています。今回の経験を私の目標にして、これから2年間頑張りたいと思います。（大塚 結愛）

熊本県立 南陵高等学校



全国で大切に育てた「放牧」号と「明和」号でした。校肉となった名豚と再会したときは、大きさと美しさに圧倒されました。審査委員の先生から、牛の特徴や飼育方法について指導され、校肉にはこれまでのすべてが表れるのだと聞きました。（中嶋 彩乃）

他校の皆さんから大きな刺激を受けました。校肉に入賞できず残念だったのですが、A5・BMS12を獲得するとともに副賞の賞金も高い評価をいただくことができてきました。セリも見学でき、貴重な経験でした。牛への感謝は忘れません。（池上 結加那）

和牛甲子園に参加して得た一番の収穫は、他校の取組みを調べ、自分たちの取組みと比較できたことです。自身に牛と向き合うだけでなく、地域に目を向け、飼育技術を向上させたいと考える姿に、もっと頑張ろうと思いました。（加江 聖之輔）

宮崎県立 高鍋農業高等学校



2年度となる和牛甲子園で、校内部門と取組発表部門の両部門で最優秀を獲ったことに感謝します。また、大会に参加して、大会の雰囲気や校内の見方の劇明がありがたくも分かりやすく良い経験となりました。次の集日館では最優秀賞が取れるようにさらに研究を続け頑張っていきたいです。(坂藤 大知)

今回、私にとって大切な思い出となりました。三年生の正倉と17、今大会に向けて仲間と共に自分たちのアイデアで、自分たちが自分でやり遂げることを大切にしました。そして取組発表、校内部門の両方で最優秀を獲ったことに本当に嬉しく思います。来年は必ず優勝の年で最優秀賞をとりたいです。(近江 英樹)

取組発表の成績発表時に、名前を呼ばれた時は、涙が真っ白になったこと覚えていますが大変嬉しかったです。今回は、最優秀賞を獲ったので、来年はさらに上を目指して、頑張りたいです。今回の和牛甲子園で学んだことを来年に生かしたいです。(川越 真樹)

僕は1年生で、今回初めての参加でした。他の学校の取組発表を見て、どの学校も声がかっこよくして、聞きやすく、内容も大変勉強になりました。今回参加して、とてもいい経験になりました。先輩の姿がすごく刺激になりました。この経験を来年に生かしていきたいと思います。(高瀬 健智)

鹿児島県立 市来農芸高等学校



全国の高校牛乳と交流を図ることができとても勉強になりました。校内共進会では他校のレベルの高い作り手の経営に圧倒され、本校も更なる肥育技術の向上を目指さべだと感じました。後輩に期待し、応援します。(野村 寿太郎)

今大会では入賞を目標に一年間頑張ってきました。その結果、取組評価、校内評価両部門で入賞出来たことは自分にとってたくさんの学びと楽しさを与えてくれました。次回大会では最優秀賞を目指し心機一新頑張ります。(米宮 俊)

自分たちで作った取組発表で最優秀賞を受賞し、達成感ややりがいを感じることができました。今大会は他校との交流の機会が授けられ、多くの高校牛乳と交流し様々な活動について知ることができ楽しかったです。(吉野 由紀)





和牛甲子園に参加して

鹿児島県立 鶴翔高等学校



今年も参加できて嬉しかった。全国の高校生牛乳たちと交流したりしてか広げて有意義だった。

校内の結果については、町内別にシロリがある牛もいたが、肉質、肉質でいい牛ができて良かった。

今後とも今まで学んだ畜産の知識、技術を後輩に引き継いでいきたい。(編出 翔太)

私が今回、和牛甲子園に行った感想は、まず、発表部門では上の入っている高校の発表レベルの高さに驚かされた。年がけではなくSDGsを基としていた、アニマルウェルフェアを基にした牛の育て方などがありました。

校内部門では、どの高校にも肉質がよく、競争もあり、上位校とはとても強豪だったと思います。(田原 翔太)

他の学校の発表を聞くことができ、知識を広げることができた。牛の飼育で対峙したこと、年が暮れたり、動き回ったりして捕まえるのが大変だった。

また、他県の生徒と意見交換などをすることができて良かった。今後は農業大学校に進学して畜産の技術、資格を取得して畜産関係の道に進みたい。(伊藤 陸人)

体験発表は、各校とも素晴らしい発表で、私にとって非常にためになった。

講演会、先輩たちの講話では、海外の牛肉利用の状況と今後の展望が理解できた。先輩たちが、畜産の現場で頑張っているのを見て私もできるように努力したい。

校内部門では、出展牛に競合があったのが、尚しく、来年の出展牛は、競合が出ないようにならなければならない。(内田 海)

鹿児島県立 鹿屋農業高等学校



他校との交流や、校内のセリなどでは体験できないことをさせていたいて、ものすごく楽しく勉強になりました。次は、両部門で最優秀賞を取ることを目標としているので、那牛牛についてしっかりと丁寧な管理を維持し、これからは特に体験発表につながる活動に力を入れて頑張っていきたいと思います。(門原 真央)

今回参加して、自分達の取り組みが良い評価を受けたことで自信が持てました。他校との交流では、全国の人達とつながることができ、今後の目標として取組発表に力を入れていきたいと思う。(松原 菜月)

今回、和牛甲子園に参加して他校との交流の中で他の学校の取り組みを見ることができ、自分達の取り組みについては改善点などを見つけていることができた。来年は取組発表でも最優秀賞を取れるようにしたい。(坂元 陽輝)

今回、第7回和牛甲子園に参加して、全国の高校生と競う中で総合優勝をすることが出来て、自分達がやってきたことが高く評価されたことが嬉しいです。今後の目標もはっきりとしたので、今やっていることを継続していくためにも、後輩達にしっかりと活動を引き継ぎ、良い和牛を育て畜産関係に向けて頑張りたい。(山口 蒼貴)

今回、和牛甲子園に初めて参加し他校の取組発表との競争の差を感じました。他の高校生の発表を聞く中でとても努力をしてきたことが感じられ、自分達もまだ2年生なので、次回大会に向け那牛牛はもちろん、取組発表でももっと良い結果を残せるようにしたいと思います。(浦辺 聖斗)

鹿児島県立 曾於高等学校



第7回和牛甲子園に参加して良かったことは、取組発表入賞校の発表を自分の目で見たこと、枝肉を初めて見たことです。また、他県の同じ肉用牛に一生懸命に取り組む高校生と交流できたこともいい思い出になりました。枝肉評価、取組発表の両方とも入賞できませんでしたが、毎日牛とともに頑張ってくれて良かったです。卒業後も牛に関わる人生を送りたいと強く思います。

た。良い体験をさせて頂きありがとうございました。

(澤本野 晃希)

第7回和牛甲子園に参加させて頂きありがとうございました。私は初めてと高俊の枝肉を見て、とても感銘を受けました。また、自分達が育てた牛の枝肉を見ながら動物を通して頂いたので、深く理解しやすかったです。そして2頭の出品牛は凄くいい肉に仕上がったんだな、と実感することができました。この経験を鹿児島大学校での勉強に活かし、地域貢献できる畜産農家になりたいです。ありがとうございました。(上村 俊一郎)

今回の取組発表部門最優秀賞の発表はとても素晴らしい、感動しました。枝肉評価部門では全校の枝肉を見ることができましたが、どの高校の枝肉も素晴らしい、大変勉強がどこの高校であってもおかしくないと感銘していました。枝肉は各県の特徴がよく出ており、ブランド牛を身近に見られる貴重な体験になりました。また、各校の生徒とも親交を深めることができたので将来に渡っても関係が続けられるといいなと思いました。とても充実した2日間でした。ありがとうございました。(高井田 颯)





大会風景

開会前～開会式



和牛飼育体験発表会



北海道厚知安曇野高等学校

鹿屋学園大学附属
とむの百三愛高等学校

青森県立三木木葉東沢高等学校

岩手県立水沢農業高等学校



岩手県立尚志農業高等学校

岩手県立花巻農業高等学校

宮城県農業高等学校

福島県立会津農林高等学校



福島県立磐城農業高等学校

茨城県立水戸農業高等学校

栃木県立宇都宮白根高等学校

栃木県立那須高等学校



栃木県立栃木農業高等学校

栃木県立那須沼田高等学校

栃木県立費用北狭間高等学校

栃木県立矢板高等学校



群馬県立利根大草高等学校

群馬県立高岡中央高等学校

神奈川県立中央農業高等学校

岡山県立中央農業高等学校



岐阜県立大垣養老高等学校

岐阜県立加茂農林高等学校

岐阜県立飛騨高山高等学校

愛知県立愛知農業高等学校



大会風景

和牛飼育体験発表会



滋賀県立長浜農業高等学校

京都府立農芸高等学校

鳥取県立出雲農林高等学校

岡山県立瀬戸南高等学校



広島県立西条農業高等学校

広島県立庄原実業高等学校

山口県立大畑海洋高等学校

福岡県立糸島農業高等学校



大分県立久住高等学校

佐賀県立唐津南高等学校

長崎県立諫早農業高等学校

熊本県立南郷高等学校



宮崎県立高鍋農業高等学校

鹿児島県立市来農業高等学校

鹿児島県立鶴岡高等学校

鹿児島県立鹿屋農業高等学校



鹿児島県立枕崎高等学校



和牛枝肉勉強会および共励会





大会風景

褒賞式～閉会式





第7回和牛甲子園 開催要領

全国農業高等学校和牛飼育体験発表会および和牛枝肉共助会開催要領

制定 令和5年12月11日

第1章 和牛甲子園 開催概要（趣旨・主催・後援・事務局等）

（趣旨）

第1条 全国の農業高等学校で飼育された和牛を対象に、全国の農業高等学校の生徒を集めて和牛飼育体験発表会（以下、「体験発表会」とする）および和牛枝肉共助会（以下、「枝肉共助会」とする）を開催することで、将来の高産果の接継者たる農業高等学校の生徒に情報交換・交流の場を提供し、参加者の飼育技術と生産意欲の向上を図るとともに、わが国の農業の後継者・担い手の育成に資することを目的とする。

（主催）

第2条 全国農業協同組合連合会（以下JA全農という）が主催する。

（後援）

第3条 文部科学省、農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構、独立行政法人畜産改良センター、東京都中央卸売市場食肉市場、東京食肉市場株式会社、全国農業高等学校長協会、日本学校農業クラブ連盟、公益財団法人全国学校農協協会、公益社団法人全国食肉学校、一般社団法人全国農業協同組合中央会、JA全農ミートワーズ株式会社の後援とする。

（事務局）

第4条 この事務局はJA全農畜産総合対策部に設置する。また、JA全農ミートワーズ株式会社東日本営業本部内に開催事務局を設置して、開催時等の対応をおこなう。但し、会期中はともに東京都中央卸売市場食肉市場内に置く。

第2章 体験発表会

（開催日時・場所）

第5条 第1条の目的を達成するため、令和6年1月18日に品川グラウンドホールで行う。

（出場校の資格）

第6条 出場校は日本国内の高等学校で、「枝肉共助会」への出品予定者であること。但し、「出品予定牛のへい死等」もしくは、「第8回和牛甲子園に出品予定の牛がいるが、出荷締切期ではないため枝肉共助会には出品できない」といった止むを得ない理由で枝肉共助会に出品が出来ない場合限り、事務局長の承諾の上、体験発表会のみ参加を認める。

（発表内容）

第7条 発表内容は、主に「枝肉共助会」の出品牛を対象とした取組内容（飼養、研究取組、飼育体験その他）とする。

（提出方法）

第8条 発表内容の提出については別表1「第7回和牛甲子園 体験発表会応募規定」に留意して応募すること。



第7回和牛甲子園 開催要領

(出場校数)

第9条 出場校は41校を予定する。但し事情により変更することもある。

(出場登録)

第10条 出場校は事務局に別紙様式の体験発表会事前審査資料提出表（出場登録用）と事前審査資料の提出を令和5年11月24日までにこない、出場登録をおこなう。

第3章 枝肉共助会

(開催日時・場所)

第11条 枝肉共助会は第1条の目的を達成するため、令和6年1月19日に東京都中央卸売市場食肉市場において開催し、同日に賞状授与式を品川グランドホールで行う。

(出品資格)

第12条 出品牛は審査において、次の条件に適合するものでなければならない。

- (1) 日本国内の高等学校から出品されたものであり、かつ、最長飼養地・最終飼 養地が出品高等学校であること。
- (2) 黒毛和種飼育牛（去勢・雌）であること。
- (3) 子牛登記証または血統証明書を具備し、生産履歴証明書を有していること。
- (4) 1校につき2頭まで出品できる。

(出品頭数)

第13条 出品頭数に50頭を予定する。但し事情により変更することもある。

(出品登録)

第14条 出品校は別紙様式の枝肉共助会出品申込書（出品登録用）を令和5年11月24日までに事務局に提出し、出品登録をおこなう。

(出品牛および枝肉)

第15条 出品牛は令和6年1月17日の13時までに東京都中央卸売市場食肉市場に搬入する。

第16条 出品牛及び枝肉には、主催者が指定する標識を付する。

第17条 枝肉の販売は冷と体で、ロース芯および四肢筋の状態がわかるように、第6、第7肋間筋を切開することとし、用品者は販売を拒むことはできない。

第18条 出品牛及び枝肉の事故による損害、ならびに予見できない瑕疵については、主催者ならびに事務局はその責を負わない。

第4章 和牛甲子園開催日程・審査委員・審査方法・褒賞等

(日程等)

第19条 行事日程におおむね次の順序に従ってこない。詳細日程は別途に定める。

- | | |
|-----------------|------------------|
| (1) 生体搬入（測定・計量） | ：令和6年1月17日 13：00 |
| (2) と畜解体 | ：令和6年1月18日 9：00～ |
| (3) 枝肉とり販売 | ：令和6年1月19日 9：00～ |

- (4) 枝内共働会 : 令和6年1月19日 10:30～
 (5) 褒賞授与式等 : 令和6年1月19日 13:30～

(審査委員)

第20条 審査委員に、学識経験者および畜産職員等から和牛甲子園事務局長が選出・委嘱する。

(審査方法)

第21条

- (1) 審査は、体験発表会を審査する「取組評価部門」と、公益社団法人日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格に基づき枝肉審査をする「枝肉評価部門」とし、審査方法は別途定める。
 (2) 総合評価部門の審査にあたり、2頭出品されている高校においては、成績が優良な方の枝肉1頭を審査対象とする。なお、枝肉評価部門においては、2頭とも入賞の対象となる。
 (3) 原簿として、採点結果は公表しない。

(賞賞)

第22条 賞賞は審査の結果、別表2に定めるとおりとする。

第5章 出品校に対する補助

(出品牛の運搬に対する補助)

第23条 出品校は出品牛の運搬を全国農業協同組合連合会各県本部、および各県経済農業協同組合連合会、各県農業協同組合（以下「県組織」という）に委託し、積込の場荷については、別途指示する。また、事務局は運搬にかかる費用を別表3に従い、出品校に補助する。

(参加に要する旅費・宿泊費の出品校の生徒・引率教員に対する補助)

第24条 事務局は出品校の和牛甲子園参加のために要する旅費・宿泊費を、別表4に従い、出品校に補助する。

(23条・24条以外の経費の出品校負担)

第25条 前23および24条で定めた以外の出品に要する経費は出品校の負担とする。

(対策費の受入・支出および手続き)

第26条 対策費（出品牛の運搬、その他大会経費）の受入・支出および手続き

- (1) 対策費（借貸金等）の受入 : 雑収入
 受入科目: 雑収入-雑収入-その他
 科目コード: 913-913-88
- (2) 生体運搬費、およびその他大会経費の支出(事業促進費)
 支出科目: 事業促進費-情報宣伝費-集約
 科目コード: 551-617-00
- (3) 支出申請期日: 出品校は令和6年1月末までに、事務局指定の様式にもとづき、事務局に支出申請をおこなう。
- (4) 支出時期: 本会は県組織、各学校の申請にもとづき、令和6年3月末までに各学校等への支出を完了する。



第7回和牛甲子園 開催要領

第6章 役職員・その他

(役員員)

第27条 和牛甲子園には次の役職をおく。

会長1名、事務局長1名、事務委員 若干名。

なお、会長には主催者であるJA全農の畜産担当常務理事がその職務にあたる。また、事務局長はJA全農の畜産総合対策部長がつとめる。

(その他)

第28条 その他

- (1) 広報活動を目的として、和牛甲子園に関する写真及び映像を印刷物やWEB・SNS・テレビ番組上で掲載をおこなう場合がある。
- (2) 開催要領の解釈その他疑義、および必要な事項は事務局長がこれを決定する。
- (3) 事故防止策および感染症対策は別表5に定めるとおり、開催地の行政機関（東京都等）の要請等と同開催会場が定める「ガイドライン」等に則り、適宜対応する。

第29条 この開催要領の適用期間は、次回和牛甲子園開催要領の制定までとする。

以下余白

別表1. 第7回和牛甲子園 体験発表会動画規定

体験発表会動画の作成・提出においては、以下の点に留意して応募すること。

1 発表時間

(1) 計測の開始と終了

- 発表者が発声を始めた時点から計測を開始し、「終了します」を言い終えた時点までとする。
- 開始から終了までの時間は、7分前後とすること。

(2) 注意事項

- 発表時間が7分20秒を超過した場合は、1点減点とする。その後30秒超過ごとに1点減点とする。

2 撮影場所

- 動画の撮影場所は、学校施設の屋内で行うこと。
- 発表者の声聞き取りやすい場所での撮影が望ましい。
- 発表者の身振りや表情が分かりやすい光量の場所で撮影が望ましい。
- 撮影後に音声が聞き取れるか確認を行なうこと。

3 撮影機材

- 撮影機材はビデオカメラ、タブレット端末 (ipad) 等を用いて撮影する。
- 撮影機材は手持ちではなく、三脚など機材を固定する方法を用いて撮影すること。
- 加工は行なわないこと。

4 撮影画面構成

- 登場する人数に制限は設けないが、発表者含め登場者は全員顔まで含め半身以上は必ず映るようにすること。
- 発表者の表情や身振り手振りが分かるような大きさとで撮影すること。
- カメラのビントは発表者に合わせる。
- 発表資料はパワーポイントをスクリーンに映すこと。
- プロジェクターの明るさは一定以上が望ましい。
(目安として2000ルーメン以上とする。)
- 撮影画面構成は以下の図を参考にすること。



第7回和牛甲子園 開催要領

- ・発表者が全員映るようにすること
- ・発表者の表情や身振り手振りが分かるような大きさとで撮影すること
- ・ピントは発表者に合わせること



- ・スライド画面の切り替えが見えるようにする
- ・細かい文字は読めない大きさでも可
(※手元でも資料を確認するため)



(7) 第6回大会の体験発表動画を参考にし、作成すること。

第6回体験発表動画 (YouTube)

URL:<https://wagyukoushien.com/2022/main/koushien01/taikumi/>

5 編集・加工について

- (1) アプリやソフトによる映像・音声加工は禁止する。
- (2) タイトルやテロップ、クレジットの表記は不要とする。

6 動画ファイルの仕様とフォーマット (FHD推奨)

- (1) 解像度 : 1080p
- (2) 動画アスペクト比 : 16:9 (ワイド比率)
- (3) ファイル形式 : MOV または MP4
- (4) フレームレート : 30fps

7 動画提出締切日

- (1) 令和5年12月15日当日消印有効とし、事務局へ送付する。
- (2) 動画データ提出方法は事務局より別途案内する。

別表2. 第7回和牛甲子園賞状一覧

総合評価部門		体験発表会		枝肉共助会	
総合評価部門		取組評価部門		枝肉評価部門	
最優秀賞	1点	最優秀賞	1点	最優秀賞	1点
奨励賞	最優秀賞以外 全参加校	優秀賞	2点	優秀賞	2点
		優良賞	3点	優良賞	3点
合計	全参加校	合計	6点	合計	6点

総合評価部門の最優秀賞1校に対し、農林水産省畜産局長賞を授与する。
ここに定める以外の特選賞等は審査委員会の合意により、適宜設定する。

別表3. 第7回和牛甲子園「枝肉共助会」生体運送に要する経費の補助

項目	使用基準	備考	
生体運送に要する経費の補助	事務局は学校の所在地から開催地（東京都中央卸売市場食肉市場）までの実距離を基準とした別記1の基準金額か、実経費のいずれかの低い金額を出品校に補助する。	提出書類 (支出を証明する書類)	
	別記1 生体運送に要する補助金額基準表（税抜価格）	①議決業者の見積り・請求書と いった金額が明記されたもの ②あるいは③にかかるもの ①②または③を基に学校毎に 手書きにて提出すること。 ※この書類等の添付がない場合、 補助しない。	
	生体運搬費補助の基準		
	出品校から開催地（品川） までの距離		生体運搬費補助 (単価) / 1頭あたり
	100キロまで		11,000
	200キロまで		15,000
	400キロまで		17,000
	600キロまで		19,000
	800キロまで		21,000
	1,000キロまで		23,000
1,000キロ以上	25,000		



第7回和牛甲子園 開催要領

別表4 第7回 和牛甲子園 参加（旅費・宿泊費）に要する経費の補助

項目	使用基準	備考
参加旅費・宿泊費の補助	事務局は出品校の生徒および引率教員等に下記の基準に従い支出し、参加旅費・宿泊費を補助する。 また、出品校は、補助金の申請にあたり、事務局に支出を証明する書類を提出する。	提出書類 (支出を証明する書類)
	(1) (補助対象の範囲) 参加1校あたりの補助範囲は、生徒・引率教員等を含め、最大3名までとする。	①利用した交通機関、宿泊施設の領収書 (裏面に利用者氏名と押印をすること)
	(2) (旅費・宿泊費に対する補助の基準) 旅費と宿泊に対する補助の基準は別記2のとおり。	②または①に代わるもの
	別記2. 参加旅費・宿泊費の補助基準（視覚価格）	上記①または②を参加学校毎に事務局に提出すること。 ※この書類等の添付がない場合、宿泊費、参加旅費は補助しない。
	生徒・引率教員等の参加旅費・宿泊費の補助	
	往復にかかる旅費と宿泊費の合計金額の半額 (注) 円未満は切捨て	
	注1: 宿泊費は1人1泊1200円(消費税抜)までを目安とする。	

別表5. 和牛甲子園大会における事故防止対策・公衆衛生対策

本行事の実施に当たっては、災害の未然防止と来場者等の安全確保のため、非常時における通報連絡体制や避難誘導など、必要な事故防止対策を講じる。

また、各種感染症予防のため、使用会場の「使用ガイドライン」に則り、会場内の換気やこまめな消毒・清掃・手洗いの実施など、必要な公衆衛生対策を適宜実施する。



審査基準・褒賞について

1. 評価部門・褒賞

(1) 取組評価部門

最優秀賞1点、優秀賞2点、優良賞3点の計6点とする。

(2) 枝肉評価部門

最優秀賞1点、優秀賞2点、優良賞3点の計6点とする。

(3) 総合評価部門

取組評価50点+枝肉評価50点の合計100点で評価する。

(最優秀賞1点のみで、他は奨励賞)



2. 審査基準

(1) 最優秀賞の決定

取組評価部門（体験発表会）の得点（50点満点）と、枝肉評価部門の得点（50点満点）との合計点数（100点満点）で、総合評価部門の最優秀賞を決定する。

(2) 取組評価部門（体験発表会）

体験発表会の発表は、審査委員が【表1】の基準により点数評価し、5項目×5点満点/項目×審査委員5名（審査委員6名のうち最低得点者を除く5名）の125点満点を2.5で除した50点満点とする。

(3) 枝肉評価部門

出品牛は、公益社団法人日本食肉格付協会の牛枝肉格付規格に基づく肉質審査をおこない、格付結果を【表2】の基準により点数評価した、50点満点とする。

【表1】

評価項目	体験発表会評価ポイント
1 チョレンジ・演技	前年と比べてどのような新しい取組みを行ったり、困難に直面したときどのように問題解決を行ったりしたかなど、高校生のチャレンジ・演技を評価出来る発表であったか？
2 資料	発表資料はわかりやすく、起承転結がしっかりした内容で、誤字脱字がなく、構成・図表等を含め読み手に対して取組内容が的確に伝わるものであったか？
3 内容1（表現）	発表は、論理的・客観的で分かりやすく、かつ明確な端で聞き取りやすく、チームワーク等も伝わる意欲溢れた内容であったか？
4 内容2（目的・創意工夫等）	取り組むべき目標を計画的に進め、高校生らしい創意工夫や独自性がある目的意識を持った取組内容であるか？
5 総合	全体を通して評価すべき内容があれば加減。（加減部分0～5点）



審査基準・褒賞について

【表2】

和牛甲子園 審査基準

		枝肉評価の得点		合計52点	+	数値評価の得点		合計50点	-	合計100点満点
		合計52点				合計50点				
追加 加点 基準	コース芯 面積	令和4年度全国平均 (去勢・雌別)より上	+2	+2	+	実業者員5名(実業者員 5名のうち、数値得点者 5名のみ)×75点/75名 のポイント付与	-	総合評価 100点		
		1000cm ² 以上	+1							
	バラの厚さ	令和4年度全国平均 (去勢・雌別)より上	+1	+1						
		10cm(去勢)以上 9cm(雌別)以上	+1							
	脂肪酸 (オレイン酸)		55%以上	+2					+2	
	等級	BMS	基準点	加点					減点	
5等級	12	25			+	実業者員5名(実業者員 5名のうち、数値得点者 5名のみ)×75点/75名 のポイント付与	-	総合評価 100点		
	11	30								
	10	37								
4等級	9	29								
	8	27	①未満より	①参加より						
	8	22	②未満の肉質	②肉の肉質						
3等級	7	20	③薬品の使用と賞	③肉の脂肪と賞						
	6	18	④肉の鮮度	④肉の鮮度						
	6	14	及びその他	及びその他						
2等級	5	12	⑤肉質・保鮮	⑤肉質・保鮮						
	4	10	⑥その他	⑥その他						
1等級	3	9	(肉質等の改善等)	(肉質等の改善等)						

上記①～⑥の内訳は
 別表を参照する
 (合計6点)

上記①～⑥の内訳は
 必ず参照を要する
 (合計6点)

①(25点/審査委員)×5名/25

- 枝肉部門の配点は、50点満点とする。
- コース芯面積について、令和3年度全国平均(去勢・雌別)を越えたら2点加点
- バラ厚さについて、令和3年度全国平均(去勢・雌別)を越えたら1点加点
- 脂肪酸(オレイン酸)の数値について、55%以上は2点加点

【加点基準】

令和4年度 令和4年4月・令和5年3月	コース芯面積 (測定長短面積)	バラ厚さ	脂肪酸 (オレイン酸)
黒毛去勢牛 全国平均	68.2cm ²	8.4cm	
黒毛めす牛 全国平均	65.6cm ²	8.0cm	
加点基準	①平均を越えたら 2点加点 ②去勢牛 100cm ² めす牛 90cm ² 以上で更に1点加点	①平均を越えたら 1点加点 ②去勢牛 10cm めす牛 9cm 以上で更に1点加点	55%以上で2点加点

参考資料：公益社団法人日本食肉格付協会

3. 褒賞一覧

	表彰名	総合 評価部門			販組 評価部門			技術 評価部門		
		最 優 秀 賞	奨 励 賞	参 加 賞	最 優 秀 賞	優 秀 賞	優 良 賞	最 優 秀 賞	優 秀 賞	優 良 賞
1	全国農業協同組合連合会会長賞	1		※						
2	農林水産省畜産局長賞	1								
3	独立行政法人農畜産業振興機構理事長賞	1			1			1		
4	東京都中央卸売市場食肉市場長賞	1			1			1		
5	東京食肉市場株式会社社長賞	1		※				1	2	3
6	全国農業高等学校長協会賞	1	40		1	2	3			
7	公益財団法人全国学校農場協会賞	1	40		1	2	3			
8	公益社団法人全国食肉学校賞	1	40							
9	くみあい飼料工場会長賞	1								
10	公益社団法人日本食肉格付協会会長賞							1		
11	JA全農ミートフーズ株式会社社長賞							1		
12	JA全農ミートフーズ株式会社 東日本営業本部長賞								2	3
13	全農畜産サーブス株式会社社長賞	1		※						
14	三洋貿易株式会社			※						

※…全出場校に記念品贈呈



協力者一覧

和牛枝肉共励会への出品にあたり、全国の高校からの
集荷・運搬について、以下の方々にご協力をいただきました。

(※五十音順・敬称略)

- 協力：○永楽運輸株式会社（北海道白老郡）
○株式会社奥軽井沢ファーム（群馬県吾妻郡）
○有限会社尾嶋運送（鹿児島県出水市）
○株式会社昌栄（群馬県佐波郡）
○有限会社新和農産（群馬県利根郡）
○多久島運送有限公司（佐賀県伊万里市）
○一般財団法人畜産ニューテック協会（東京都港区）
○有限会社原牧場（神奈川県伊勢原市）
○一般社団法人広島家畜改良事業団 広島産肉能力検定場（広島県東広島市）
○有限会社福原運送（鳥根県益田市）
○株式会社松永牧場（鳥根県益田市）

大会の開催と運営にあたり、以下の大学の協力をいただきました。

(※五十音順・敬称略)

- 協力：○帯広畜産大学
○東京農業大学
○酪農学園大学

ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

最適解を探求し、よりよい未来へ。

「人と、地球と、よりよい未来へ共に歩みを進めたい」

という思いをコーポレートロゴに込めて、三洋貿易は新たなステージへ。

私たちはこれからも常に一步先を見据え、

お客様にとっての最適解を探求する専門商社として挑戦を続けます。

Quest for Next

Sanyo Trading

2023年11月、三洋貿易株式会社はコーポレートロゴを刷新しました。

世界の技術とともに。

YPTECH will proceed with the dairy and livestock.



PRODUCTS LINEUP

牛用製品

●乾燥固形入り配合飼料

ファイブラーゼ

●バーム油酸カルシウム

マグナバック

●バーム油酸カルシウム + メチオニン

マグナバック プラス

●バイオコン

スターコル60

●バイオビタミンC

テクノコートV70

●硫酸亜鉛・メチオニン

バイオサポート

●ハーブ入り配合飼料

アクティブオー

牛豚用製品

●活性型酵母

アクティガス Sc47

●植物性精油

バームファット

●消化吸収性に優れた

MCT

(中鎖脂肪酸(MCFA)・短鎖脂肪酸(LCFA))

●牛・豚床用 マット

ポビレックス

●リグノセルロース

アーボセル

牛豚用製品

●糖質ナトリウム・酸化亜鉛配合飼料

ガスター-BP

(糖質ナトリウム・酸化亜鉛)

●カビ抑制剤

ミスカバインダー

豚用製品

●酵素処理大豆

HP300

●ハーブ入り配合飼料

フレスタF

●キウヤハーブ入り配合飼料

アロメックス Pro

鶏用製品

●酵母飼料

サフマンナン

●竹炭吸着型配合飼料

竹許パウダー

●酵素処理大豆

アビスタート

●ハーブ入り配合飼料

バイオストロング

ワイビーテックは三洋貿易グループです

Sanyo Trading



株式会社ワイビーテック

<https://www.yptech.co.jp/>



本社 東京都千代田区大手町1丁目6-1 大手町ビル3階

TEL.03-3214-7330 FAX.03-3214-6731

都庁営業所 北海道帯広市第一東町一丁目一番地 第一ビル3階C号

福岡営業所 福岡県福岡市博多区中興町1番5号 16ビル1号B

スマホから 大切な今を取り出そう。

スマホの中の写真は、どれも特別な瞬間。

でも、そのまま残しておく、と、どんどん増えて埋もれてしまうことに。

全国のセブン-イレブンにあるマルチコピー機なら、

専用アプリを使って、24時間らくらく写真プリント。

かけがえのない今をすぐにカタチに残せます。



富士フイルムビジネスイノベーションのマルチコピー機なら

たのしい

シャッフルプリントで
自分好みにアレンジした写真を
驚いたり楽しめる！

あんしん

シンプルな操作画面と
ヘルプ機能でより
使いやすく

かんたん

スマホに表示されたQRコードを
マルチコピー機にかざすだけで
写真や文書データの送信もらくらく

App Store
こちら



Google Play
こちら



富士フイルム ビジネス イノベーション株式会社

fujifilm.com/fb

富士フイルム ビジネス イノベーションジャパン株式会社

fujifilm.com/fb/company/fbj

畜産映像情報

がんばる!畜産!7



日本中央競馬会
特別番組制作部

今、畜産業は担い手不足や国際化の進展など、大きな変化の局面にあります。そんな中、飼料を自ら生産したり、省力化を図ったりと、さまざまな工夫で素晴らしい経営を行っている生産者がたくさんいます。

このサイトでは、そうした各地の優れた畜産経営や、後継者の活躍、おいしくて安全な畜産物を消費者の方々に届けるまでを映像で紹介します。

この映像情報を生産者の方はもとより消費者の方々と共有することで、元気で健全な畜産の発展につなげることを目指しています。



なるほど!畜産現場

このコンテンツでは、畜産物ができるまでや、現場を支える職人たち、伝統文化などをあまり知られていない様々な畜産現場を紹介します。

●配信中的内容●

畜産DX特集 総集編 言語・書録の今に迫る / 総集編 国際食料名産地合展 2022 / 沖縄県牛の島、黒鹿の畜産の歴史 ほか

畜産トレンド発見!

このコンテンツでは、生産現場での省力化技術や、飼料用米やエコフィードなどの活用による飼料コスト削減など、「技術」に着目して各地の事例を紹介します。

●配信中的内容●

総集編 若き情熱!全国和牛能力共済会 特別区/コントラクターと連携 大分県高田牧場 / 総集編 いま田舎の和飼料を支える!

ほか

グリーンチャンネル
でも放送中

— 放送日 —
毎週月～全曜日
第7時～

「がんばる!畜産!7」

URL : <https://jlia.lin.gr.jp/ganbaruchikusan/>

(お問合せ先)

公益社団法人中央畜産会 経営支援部 (情報)

TEL : 03-6206-0846 FAX : 03-5289-0890



農業と歩みつつける。
人生に寄り添いつづける

くらしの中にも、大地の恵みがある。

それは、食卓にひろがる笑顔。

それは、たがやんを人との絆。

それは、畑作への誇りたのしみ。

私たちJAバンクが、

あなたの一歩一歩に寄り添いつづける。

笑みある人生の方にならうたい。

未来へ贈る田舎のうまさあなのため。

ええです。JAバンクがたのしみです。

JAバンク
食卓・人生と笑顔のあそび

共栄火災

一緒にずっと。安心をもっと。

あなたを、もっと笑顔に。

創業の理念「共存同栄」「相互扶助」のもと、
これからも皆様の大切な笑顔のために
安心と安全を提供してまいります。

共栄火災海上保険株式会社

〒105-8504 東京都港区新橋 1-18-6
<https://www.kyoeikasai.co.jp/>

自然は、
自然のままが、
いちばん、おいしい。

にっぽんの酪農家が1年265日子牛にかけ、
じっくり育んだ自然の恵み「生乳」。
その「おい」と「おいしさ」を
最大限に活かし、
皆様の食卓へお届けします。

農協牛乳
生乳100%使用
容量 1000ml

農協牛乳
容量 500ml

商品の詳しい情報は、こちら

協同乳業株式会社

私たちが、いのちを育み、
豊かな食を創造し、
みんなの笑顔をサポートします。

分岐監視システム
「モバイル牛温感」



牛群管理システム
「Farmnote Color」



子牛用管理システム
「アットモーメント」



牛用監視カメラ
「カメセン」

この他にも様々な畜産資材を
数多く取り揃えております。
畜産資材をお求めの際はぜひお近くのJAまで!!



全農畜産サービス株式会社
ZEN-NOH LIVESTOCK CO., LTD.

☑会社HPはこちら



本社 資材・大家畜事業部
〒135-0041 東京都江東区冬木11-17
TEL:03-5245-4871

北海道駐在
〒060-0004 北海道札幌市中央区北4条西1-1
共済ビル5階
TEL:070-4422-8092

北九州営業所
〒810-0073 福岡県福岡市中央区1-4-30
TM-36ビル303号室

TEL:092-715-8787
南九州営業所
〒899-8212 鹿児島県曽於市大隅町月野1587-5
TEL:099-482-2521

祝 第7回全国農業高等学校
和牛枝肉共励会

科飼研の提供する和牛用製品ラインナップ



繁殖牛

商品名	特長	包装単位
E繁殖	繁殖に必要なビタミン補給	10kg袋
とまるちゃん	受胎に必要なアミノ酸補給	10kg袋

子牛

商品名	特長	包装単位
さいしょのミルク	免疫グロブリン強化	250g × 8
ネオドリンクHG	速やかなエネルギー補給 (液剤)	30mL × 100、18L
ネオドリンクパウダーBOX	速やかなエネルギー補給 (粉末)	2kg × 5、20kg
ニューケアフルメイト	脱水時のイオンサプライ	630g × 10、2.5kg × 2
ミラクルメイト	食物繊維(オオバコ粉末) 強化	2.5kg × 2

肥育牛

商品名	特長	包装単位
くみあい起き上がりこぼし	肥育時のビタミンB群補給	20kg袋
ミネビタさじかげん	肥育後期のビタミンA補強	10kg紙袋
くみあい喝牛	食い止まり対策時に	10kg紙袋
くみあい快食快尿さん	雄牛の快尿快食に	10kg紙袋

防疫・衛生

商品名	特長	包装単位
ロンテクト	畜舎、車両、踏込槽、真菌の消毒	1L × 10、18LBIB、180L
201プラスR	堆肥の発酵促進	20kg
デオマジックHG	糞便臭の対策に	1Lパック、16kg缶



株式会社 科学飼料研究所
<http://www.kashiken.co.jp/>

総務部 TEL:027-347-8223 FAX:027-347-4577
札幌事業所 TEL:011-214-3656
東北事業所 TEL:019-637-6050 北九州事業所 TEL:096-294-8322
関東事業所 TEL:027-346-0091 南九州事業所 TEL:099-482-3044

徹底した品質管理と全国ネットワークで
日本の「食生活」を支えることが使命です。



鶏・豚・牛に与える飼料や、麦・米・小麦・大豆・コーン・スターチなど食品の原料となるトウモロコシ・大豆などの穀物は、日本の食生活に欠かせることができませんが、これらはアメリカ・ブラジル・オランダ・インドなど世界各地から輸入されています。

私たち「全農サイロ」は、全国の農業協同組合（JA）が組織する全農グループの一員として、輸入穀物を高い安全性と貯蓄性を保ったサイロに保管し、飼料メーカーや食品メーカーにお届けしています。

「全農サイロ」は輸入穀物の徹底した品質管理と全国ネットワークで日本の毎日の「食生活」を支えています。



全農サイロ株式会社

JAグループの くみあい配合飼料会社

JAグループは、原料購入から農家供給まで一貫して取り組み、
配合飼料の安定供給の責務を果たします。

-  ホクレンくみあい飼料株式会社
-  JA全農北日本くみあい飼料株式会社
-  JA東日本くみあい飼料株式会社
-  JA西日本くみあい飼料株式会社
-  ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社
-  南日本くみあい飼料株式会社





JA全農グループ

ホクレンくみあい飼料株式会社



私たちの使命は、
高品質で安全・安心な飼料を
安定的にご提供することです。



本 社	北海道札幌市中央区北4条西1丁目1番地	TEL 011-222-3301
釧路西港工場	北海道釧路市西港2丁目101番地3	TEL 0154-53-2411
十勝工場	北海道河東郡士幌町字士幌西1線147番地1	TEL 01564-5-4111
ホクレンくみあい 畜産飼料株式会社 (関連会社)	北海道苫小牧市真砂町36番地12	TEL 0144-51-5535

当社製品のご紹介



高蛋白質の肥育前期用
配合飼料



バイパス蛋白質強化用の
サプリメント配合飼料



肥育後期のエネルギーと
ビタミン補給に

お問い合わせ先

支店名	住所	TEL
北東北支店・岩手営業所	岩手県紫波郡矢巾町流通センター南2-5-2	019-638-7910
青森営業所	青森県八戸市大字川原木字海岸24番7	0178-21-3320
秋田営業所	秋田県秋田市寺内字大小路207-28-1	018-845-0452
南東北支店・宮城営業所	仙台市宮城野区宮城野1-12-1	022-792-2823
山形営業所	山形県東根市大字笹沢字下縄目1863-19	0237-41-2670
庄内営業所	山形県鶴岡市藤浪3丁目11-1	0235-78-2711
福島営業所	福島県郡山市田村町金屋字川久保23 JA全農福島郡山ビル2F	024-941-0825



JA全農北日本くみあい飼料株式会社

お届けします。

一歩すすんだ、安全・安心・信頼。

日本の豊かな食文化の向上に貢献します

ISO9001・抗菌剤GMP・FSSC22000の
管理手法に基づき、安全・安心で高品質な飼料をお届けします。

また、衛生・防疫管理を徹底し、工場の入・退場口の
完全洗浄・消毒の自動化による万全な衛生対策を実施
しております。



農家生産者と地域に密着した企業としてご期待に
応え得るよう努力してまいります。

 JA全農グループ
JA東日本くみあい飼料株式会社



JA西日本くみあい飼料株式会社

「食」の安心は、安全な飼料から

西日本をかけめぐる養牛営業マンたちのご紹介
 “にしく”の営業マンたちは、皆様のごさまざまなニーズにお応えでき
 るよう、農場に足を運び、コミュニケーションを通じて、より身近な
 パートナーとして、皆様と共に歩んでまいります。

- ①ヨネさん
- ②中国支店山陰営業所
- ③現実第一！安心安全な飼料をお客様に提供します。

- ①ニックネーム
- ②所属
- ③得意分野

- ①チャディ
- ②中国支店営業課
- ③会えば笑える営業マンを目指して、日々私自身、増体しています。少しでも皆様のお役に立てる頑張ります。

- ④安定感抜群の12インチ
- ⑤近畿支店京滋営業所
- ⑥農家さんの夢や希望に寄り添って全力投球でサポートします！

- ⑦紫の勇者たち
- ⑧近畿支店京滋営業所
- ⑨一つながる“全ての人々”が笑顔で生き生きと～スローガンにサポートします！

- ①モノトーンサイコパスめがね
- ②中国支店西中国営業所
- ③牛肉を食べたい一心で日々皆様のために頑張っております。サスティナブルな畜産で持続開拓を目指します！

- ①アヅミックス
- ②四国支店営業課
- ③乳牛・肉牛二刀流で頑張ります！いつでもお電話お待ちしております。

- ①suggestionの鎌金術師
- ②近畿支店営業課
- ③因こどきにふと相談したくなるような営業マンに・・・ww

- ①まっちゃん
- ②四国支店西四国営業所
- ③課題の特定と解決に心がけています。大切に育てられる一頭一頭をぜひサポートさせていただきます。

JA西日本くみあい飼料株式会社 本社
 〒651-0083
 兵庫県神戸市中央区浜辺通5丁目1-14
 神戸商工貿易センタービル 15F
 TEL:078-251-2493
 FAX:078-251-2490



機敏に! 地域に根ざして— ジェイエイ北九州くみあい飼料です



山口工場 山口県防府営業所



本社



大分工場



熊本工場



佐賀工場

生産者にもっとも近い工場からお届けします。


 ジェイエイ北九州くみあい飼料株式会社

いのちをいただき、未来につなげる。



豊富なカリキュラムと
実習教材



充実した設備



行事ごとに深まる絆



令和7年度学生募集中

科・コース	総合費成科	総合費成科 前期コース	食肉販売科
募集人員	30名		20名
修学期間	入学4月8日(火) 卒業2月27日(金) 1年	入学4月8日(火) 卒業9月26日(金) 6カ月	入学4月8日(火) 卒業7月4日(金) 3カ月
出 願 受付期間	令和6年5月1日(月)～令和7年3月14日(金) ただし、募集定員に達し次第締め切ります。		

※入学・卒業日については都合により変更する場合があります。

全国食肉学校連合会



公益社団法人 全国食肉学校

Federal Meat Academy

〒310-1103 群馬県佐田郡玉村町大字碓城1794

TEL:0270(65)2571

FAX:0270(65)5274

詳しくはホームページをご覧ください

<http://www.fma-ac.jp>

Eメール fma@fma-ac.jp

あなたもお肉博士になりませんか。

学高あり

第13回お肉検定 令和6年度開催予定!

詳しくは nikuken.com をご覧ください。



全農チキンフーズグループ

これぞ
信頼の国産鶏
ブランド

まごころ込めた国産鶏ブランドに
皆さまの信頼とニーズに
お応えしてまいります



わたしたちは、ニッポンのおいしいチキンに
産地のまごころを込めて、ニッポンの食卓に幸せをお届けします。



ZC 全農チキンフーズ

全農チキンフーズ株式会社
〒108-0075 東京都港区赤坂2-12-33 品川キアパーク4F
TEL: 03-6864-0200 www.zc-f.co.jp

全農チキンフーズ株式会社の
詳しい情報はこちら



グループ会社 MC 株式会社チキンフーズ販売部 KC 株式会社チキンフーズ販売部 Sumita Foods 株式会社すみた食品 ZC 株式会社アオニヤ

TAMAGO TRIP

～たまごが供給されるまで～

● 物流

いつも、いつでも、たまごがある毎日。国産全国の生産者から安定的にたまごを仕入れ、全国の運搬店、食品メーカー、製パン屋などに販売、日本のたまごの安定流通を支えています。

● 相場発表

全国のたまごの需給動向を業約し、東京・大阪・名古屋・福岡の各市場の毎日相場をJA全農たまごのホームページにて発表しています。全国の産卵鶏引価格の指標として広く活用されています。

● 品質管理

たまごの賞味期間の日付管理を行っています。また、毎年産卵生産農場の衛生管理状況などを点検し、高品質で安心できる商品提供をサポートしています。

● 液卵製造・販売

自社工場や提携工場で製造した液卵を、食品メーカー（パン・お菓子・玉子焼など）やスーパーの惣菜、外食産業など数販路のお客様に届けて販売しています。

● 輸出

船越拡大に向けてたまごの海外輸出に力を入れています。日本のたまごは、安全性の高いたまごとして韓国・マカオなどアジア圏を中心に東南アジア圏を伸ばしています。

SEA

HONG KONG

MACAU

TAIWAN

SINGAPORE

● 外食販売

串焼・ハンバーガー・ファミレスチェーンなどの外食産業に向けて業務用のたまごを販売しています。

● たまご加工品製造

自社工場や提携工場で、ゆでたまごや漬たまごを製造し、全国の産卵店などへ販売しています。グループ会社の飲食店では玉子焼などのたまご加工品を製造・販売しています。

● スイーツショップ

通常のスイーツショップTAMAGO COCCOでは、パティシエがたまご保護の原則にこだわったお菓子を製造・販売。たまごの美味しさを店舗がお客様へ届けています。また、パティシエは業務用たまごの商品開発やレシピ開発・食育活動などにも関わっています。



JA全農たまご株式会社

たまごの栄養・環境特性・文化など、知られざる「たまごのチカラ」を紹介。紹介ページはこちら▶



「食」
 に関わること
 すべてが、
 私たち
 JAグループの
 仕事です。



JA全農ミートフーズ株式会社の事業

日本の農業と農家を、さまざまな事業や活動でサポートしているJAグループ。
 その中でJA全農ミートフーズ株式会社の事業は、
 畜産農家が育てた畜産物を新鮮な状態で、安心して食べたい分けるよう、
 消費者にお届けすることや畜産農家のために貢献することです。

全農

JA全農ミートフーズ株式会社

〒108-0075 東京都港区港南2-12-33 品川キャナルビル2階 TEL03-5783-9711 FAX03-5783-9718

農業高校で飼育された和牛の肉質と日頃の取り組み内容を競う全国大会

One for all All for 和牛!



第7回
和牛甲子園

開催日

2024

1 | 18 | THU | 19 | FRI

1日目 和牛飼育体験発表・ 2日目 和牛枝肉共励会

開催場所 東京都中央卸売市場食肉市場・
品川グランドホール (THE GRAND HALL)

第7回の和牛甲子園ホームページ
大会の様子はこちらでも
ご覧いただけます。

和牛甲子園について

和牛甲子園は、和牛を飼育する全国の農業高校の生徒、高校球
究ならぬ「高校牛児」たちの大会です。育てた和牛の肉質と、
飼育に関する日頃の取り組み内容を競います。全農は (1) 将来
の担い手候補である高校生の就業意欲の向上 (2) 日本各地で同
じ志を持つ高校生同士のネットワークを創出し、意欲と技術の
向上を図る一の2点を目的に、和牛甲子園を開催しています。

史上最多！全国25道府県41校59頭がエントリー！

No.	第7回参加校	No.	第7回参加校
1	東京都 日野農業高校	25	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
2	千葉県 柏市立大野川高等学校	26	福岡県 福岡県立福岡北高等学校
3	東京都 豊島区立東大森高等学校	27	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
4	東京都 品川区立東大森高等学校	28	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
5	東京都 品川区立東大森高等学校	29	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
6	東京都 品川区立東大森高等学校	30	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
7	東京都 品川区立東大森高等学校	31	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
8	東京都 品川区立東大森高等学校	32	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
9	東京都 品川区立東大森高等学校	33	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
10	東京都 品川区立東大森高等学校	34	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
11	東京都 品川区立東大森高等学校	35	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
12	東京都 品川区立東大森高等学校	36	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
13	東京都 品川区立東大森高等学校	37	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
14	東京都 品川区立東大森高等学校	38	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
15	東京都 品川区立東大森高等学校	39	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
16	東京都 品川区立東大森高等学校	40	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
17	東京都 品川区立東大森高等学校	41	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
18	東京都 品川区立東大森高等学校	42	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
19	東京都 品川区立東大森高等学校	43	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
20	東京都 品川区立東大森高等学校	44	福岡県 福岡県立福岡南高等学校
21	東京都 品川区立東大森高等学校	45	福岡県 福岡県立福岡南高等学校

主催 **全農** 全国農業協同組合連合会 (JA全農)

後援 文部科学省、農林水産省、独立行政法人農畜産業振興機構、
独立行政法人畜産改良センター、東京都中央卸売市場食肉市場、
東京食肉市場株式会社、全国農業高等学校長協会、
日本学校農業クラブ連盟、公益財団法人全国学校農場協会、
公益社団法人全国食肉学校、一般社団法人全国農業協同組合中央会、
JA 全農ミートフーズ株式会社



※ 掲載内容は、ご応募いただいた際の募集要項の内容を必ずご確認ください。

【お問合せ】JA全農 畜産総合科術部 ☎03-6271-8216